



星光PMC株式会社
SEIKO PMC CORPORATION

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3丁目3番6号
TEL: 03-6202-7331
FAX: 03-6202-7341
URL: <https://www.seikopmc.co.jp>



本レポートには、より多くの方にとって読みやすいよう、UDフォントを使っています。

本レポートの表紙は、社会福祉法人東京コロニーアートビリティの運営する「アートビリティ」に登録された障がい者アートを利用しています。
(詳細：P.1)

SEIKO PMC REPORT 2024

くらしをこちよく、 みらいをあたらしく

報告対象範囲

星光 PMCおよび国内・海外のグループ会社。ただし、「星光PMCグループ/当社グループ」と記載している箇所は全グループ会社、「星光PMCグループ（国内）/当社グループ（国内）」と記載している箇所は、星光PMC、KJケミカルズ、KJケミテック、マリンナノファイバーの4社が対象。

報告期間

2023年1月1日～2023年12月31日

参考にしたガイドライン等

SDGs compass、TCFD提言、環境報告ガイドライン（2018年度版）

表紙について

SEIKO PMC REPORT 2024の表紙は、社会福祉法人東京コロニーアートビリティの運営する「アートビリティ」に登録された障がい者アートを利用しています。本年は、Meri様の「いのち、萌ゆ」という作品を採用しました。新しい資本関係の元、新たなスタートを切ったばかりの当社と本作品から感じられる生命がのびやかに生まれ育つ様子を重ね合わせ、選定いたしました。



フォントについて

本レポートには、より多くの方にとって読みやすいよう、UDフォントを使っています。

Contents

概要

- トップメッセージ 3
- 星光PMCグループのMVV（ミッション・ビジョン・バリュー） 5
- 星光PMCグループのサステナビリティ 7
- 企業情報 9
- 財務・非財務ハイライト 10

事業戦略

- 社史・事業概要 11
- 製紙用薬品事業 12
- 樹脂事業 13
- 化成品事業 14
- R&D、知的財産投資 15

環境戦略

- 製品を通じた環境貢献 17
- 若手・中堅研究員オンライン座談会
～環境貢献への想いを語る～ 19
- TCFD提言に基づく情報開示 21

環境・保全

- 環境保全 23
- 品質 26
- 安全衛生 27

社会・人財

- 人財育成 29
- 働き方改革への取り組み 31
- ダイバーシティの推進/社会貢献 32
- 「ワイガヤ」プロジェクト オンライン座談会
～新規事業開発プロジェクトを通じた気づきと成長～ 33

ガバナンス

- コーポレートガバナンス 35
- コンプライアンス 36

サイトレポート

- サイトレポート 37
- 各拠点トピックス、情報開示メディア 44

持続的な成長に向けた取り組み

星光 PMC グループでは、以下に示す 12 の持続可能な開発目標に対し、積極的に取り組んでいます

開発目標	星光 PMC グループの取り組み
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	身体に有害な VOC（揮発性有機化合物）発生削減に役立つ製品の供給を通じて、ユーザーの作業・生活環境の改善に貢献しています。
ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う	ジェンダーを原因とする不平等をなくし、誰もが活躍できる企業にするため、具体的な施策とともに取り組んでいます。
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	省エネ活動やクリーンエネルギーの導入に取り組むとともに、使用時のエネルギーを低減する製品の供給を通じて、ユーザーの省エネに貢献しています。
包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	働き方改革に積極的に取り組み、ワークライフバランスの向上を図り働きやすい雇用環境の整備に努めています。
強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る	環境負荷が少なく、革新的な機能を持つ製品の開発、供給を通じて快適な暮らしに貢献しています。
各国内および各国間の不平等を是正する	性別・人種・国籍などその人の背景に関わらず、働く人がその能力を発揮できる企業にするため、具体的な施策とともに取り組んでいます。

開発目標	星光 PMC グループの取り組み
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する	企業市民として、地域社会との共生を推進しています。
持続可能な生産消費形態を確保する	事業活動で発生する廃棄物の減少に取り組むとともに、その責任ある処理を行っています。
気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる	定量的な二酸化炭素排出削減目標達成のため継続的に削減計画を推進しています。使用時のエネルギー低減に貢献する製品の供給を通じて気候変動対策に取り組んでいます。
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	環境負荷を低減する製品の供給を通じて海の豊かさを守っています。水資源の有効利用と事業活動で発生する排水の責任ある処理を行っています。
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	透明かつ公正な意思決定プロセスの整備を推進しています。
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	オープンな研究開発により、イノベーションを加速させています。

トップメッセージ



貪欲に成長を求める会社へ 星光PMCグループの新たな“Change”

星光PMC株式会社
代表取締役社長執行役員 菅 正道

資本構成を変更し新たな出発

当社グループは、長年ともに歩んできたDICグループから離れ、2024年1月に新たなスタートを切りました。ただし、この変化によって当社グループの根本的な姿勢が変わることはありません。人々の快適な生活と地球環境への貢献を図るという当社グループの使命はいささかも揺らぐことはなく、むしろこの新たな出発を機に、その実現に向けてより一層邁進していく所存です。

自ら行動する人財の成長を支援し、やりがいを持って働ける職場環境を実現するための施策にも、これまで以上に注力していきます。本レポートでも、当社グループの環境への貢献と人財の育成について詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。

まずは経営理念の刷新から

資本構成の変更を機に、当社グループは経営理念の再定義を行いました。10年、20年先の当社グループの将来を担う若手社員を主体としたプロジェクトを立ち上げ、新たな

企業理念としてMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）を策定しました。（P.5参照）

新しいミッション「くらしをこころよく、みらいをあたらしく」は、製品を通じて生活の快適さや心地よさを提供するとともに、安全・環境への貢献を果たすという当社グループの目指す姿が凝縮されています。

メーカーとして、製品製造の過程でどうしてもGHGが発生しますが、事業活動を拡大させつつ、排出の絶対量を抑制するための更なる取り組みが必要となってきます。事業の成長と安全・環境への貢献の両立を果たすために、製造プロセスそのものの環境負荷低減にも一層前向きに取り組んでいきます。

また、新しいビジョンとして、ステークホルダー（取引先、社員、社会、株主）に対する約束を「Our Commitments」としてまとめました。ここで、社員も重要なステークホルダーのひとつであることを再確認し明文化しました。資本構成の変更を機会に人事制度の大幅な見直しなども実施し、社員が各々の能力を思う存分発揮できる魅力的な会社を目指します。

更なる企業の発展を目指すべく、 新たな中期経営計画を策定

新しい経営理念のもと、当社グループは更なる企業の発展を目指し、中期経営計画を策定しました。新中計は、非上場化したこともあって、社内での共有にとどめていますが、大きな方向性は従来の中計と変わりありません。

この中計のもう一つの特徴は、環境変化に即応してゴールに至る道筋を適宜修正・アップデートしていく、ということです。これにより社員が常に中計を指針として見返すことができるようになります。

事業面では、既存事業基盤の維持・強化、強みを生かした海外事業展開の加速、新たな事業の探索・育成の3点を戦略の柱としています。

海外展開については、成長軌道にある東南アジアでの製紙用薬品事業、化成品や粘着剤のさらなるグローバル展開の素地を整えました。必要に応じてM&Aなども行いながら、積極的に展開していきます。

新規事業の立ち上げにも引き続き注力していきます。安全・環境への貢献の視点からも楽しみな事業の芽が、いくつか育ちつつあります。例えば、人体の安全性の向上に資するバイオフィルムコントロール剤や低毒性の機能性溶剤、脱プラスチック化を通じて環境負荷の低減に貢献するバイオマスコート剤、カーボンニュートラルな社会の構築に貢献するセルロースナノファイバーなどが挙げられます。

また、社内では「ワイガヤ」と呼ばれる自由闊達な議論の場を設け、新しいアイデアの創出や問題解決に取り組んでいます。この文化を定着させ、新規事業の発想や既存事業の改善にも役立てていきたいです。（P.33-34参照）

これからも当社は、取り巻く環境の変化をチャンスと捉え、掲げた戦略を確実に遂行することで、事業基盤の強化と拡大を目指します。変化の激しい時代だからこそ、柔軟な対応と果敢な挑戦が求められます。当社グループは、この変化をチャンスに変えていく姿勢で事業変革に臨んでいきたいと思っています。

人財基盤の強化のための方策

当社グループは、人財基盤の強化にも注力しており、「自ら考え挑戦する人財が育ち、活躍できる環境を創る」という基本方針の下、様々な施策を展開しています。（P.29-32参照）

具体的には、やりがいと達成の喜びを感じられる人事制度の構築、企業の最も大切な資産である人財の育成や、グローバル化に根差したDEI（ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン）の推進などを行っています。一例として、

当社でも若手を中心に増えつつある女性社員の皆さんが、自分らしいキャリアを構築できるよう後押ししていきます。また、グローバル展開に向け、外国籍社員も含むグローバル人財の採用・育成に注力していきます。当社グループは、主体的に行動する人財が企業の成長の源泉であるという考えに基づき、これからも事業運営を行っていきます。一人ひとりの社員が自らの可能性を最大限に広げ、会社とともに成長していける環境づくりに全力を尽くします。

これから入社される方に伝えたいこと

就職活動中の皆さんや転職活動中で当社に関心を持ってくださった皆さんにもメッセージを送らせていただきます。当社は、自ら非上場化を選んだ元プライム上場企業ではありますが、組織の規模としてはグループ全体で700名程度と決して大きな組織ではありません。だからこそ、社員の一人ひとりが、様々なことにチャレンジできる環境があります。自分の可能性を試し、多様なキャリアの選択肢を探りたい方にとって、当社は魅力的な活躍の場となることと思います。

当社グループは国内でしっかりと事業基盤を持っておりますが、そこに安住することなく、グローバルで事業成長を目指すための大きな変革にチャレンジしています。今後の海外展開においては、社員の皆さんにも自らの新しい可能性を切り開くチャンスが多く存在します。グローバルな視点を持ち、世界を舞台に自己実現を図りたい方も、大いに歓迎いたします。

おわりに

私たちは新しい体制のもと、全ての社員がやりがいを感じ、新しいことにチャレンジできる職場づくりを目指しています。それは単に働きやすい環境を整えるだけでなく、一人ひとりが自己の成長を実感し、会社の発展に貢献できる喜びを感じられる場所を創造することです。

私たちは、この新たな出発を、より良い未来を築くための大きなチャンスと捉えています。社員一人ひとりの力を結集し、お客様を含むステークホルダーの皆様、そして社会全体に新たな価値を提供し続けていきたいと思っています。

変化は常にリスクと挑戦を伴いますが、それは同時に大きな成長の機会でもあります。当社グループは変革の時代に柔軟に対応し、新たな可能性を追求していきます。今後の当社グループの「Change」に、期待しててください。

■ 星光PMCグループのMVV (ミッション・ビジョン・バリュー)

2024年1月から、資本構成の変更をきっかけとして経営理念を刷新するプロジェクトである「MVVプロジェクト」が始まりました。本プロジェクトは、星光PMCグループの将来を担う若手・中堅社員が中心となって、約6か月間行われました。

本プロジェクトでは、当社グループの共通の強みを「**独自性のある高い技術**」「**顧客ニーズ把握力**」「**高品質製品の安定供給力**」と再定義すると共に、「**最終製品への貢献による生活の中の「こちよさ」の創出と、持続可能なみらいの両立**」を目指したいという想いから、「**くらしをこちよく、みらいをあたらしく**」というミッションが作られました。

星光PMCグループは、本プロジェクトで策定されたMVVを事業運営全般に活用し、社員の行動や判断の軸としていきます。

Mission

くらしをこちよく、みらいをあたらしく

Vision

Our Commitments

取引先に対するコミットメント

私たちは、星光PMCグループの製品に触れる事業者および消費者を含む全ての顧客と、製品の製造・販売・運営に関わる全てのビジネスパートナーに対して以下のことを約束します。

1. 顧客の要望に誠心誠意対応し、高品質な製品とサービスを提供します
2. 顧客の潜在ニーズを見つけ出し、製販技一体で培った技術力で、新たな価値を提案します
3. ビジネスパートナーと対等かつフェアな取引を通じて信頼関係を築き、相互発展に努めます

社員に対するコミットメント

私たちは、星光PMCグループにおける企業活動の原動力である全ての社員に対して以下のことを約束します。

1. 個人を尊重し、心身ともに安心・安全に働ける環境を整えます
2. 社員およびその家族が幸せな生活を送れるように、ワークライフバランスの実現に取り組みます
3. 社員の意見・発想について、自由に発信できる風土を形成します
4. 互いの成長を支援し、公正に挑戦・能力開発・教育の機会を作ります
5. 透明性と公平性のある評価制度を運用し、有能な社員には昇進・昇格の機会を与えます
6. 優秀なリーダーを任命し、リーダーはその責任を全うします

社会に対するコミットメント

私たちは、事業活動を営む地域をはじめとする社会全体に対して以下のことを約束します。

1. 資源を大切に活用し、持続可能なみらいの実現に貢献します
2. 地域環境に配慮した事業活動を行い、環境負荷の低減に取り組みます
3. 良き企業市民として、地域社会への感謝の気持ちを忘れず、社会貢献活動に取り組みます
4. グローバル企業として、各国の法を遵守し、公正な事業活動を行います

株主に対するコミットメント

私たちは、株主に対して以下のことを約束します。

1. 公明正大な事業活動により、持続的に利益を生みだします
2. 財務報告や活動状況等を適時適切に開示し、高い透明性を確保します
3. 新しいアイデアをもって挑戦し、そこから学び、次の挑戦に活かします
4. 人的資本・設備・研究開発に継続的に投資し、企業価値を向上させ続けます
5. Our Commitmentsに則った活動により、私たちは株主に利益を還元します

Value

行動規範

■ MVVプロジェクトメンバーがMVVに込めた想い

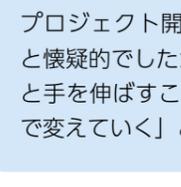
MVVプロジェクトでは、グループ各社から、研究、製造、管理など様々な職種のメンバーが集まり、熱い議論を繰り広げました。以下の通り、参加したメンバーがMVVに込めた想いをご紹介します。



社員一人ひとりが明確に「自分ごと」としてとらえられるようなものとなるよう心がけました。今までの経営指針は仕事と繋げて考えることが難しかったので、抽象的な表現は避け、MVVを読んで自分の業務をどうしたらいいのかが、イメージできるようなものにしたいと思いました。



議論を進めていく中で、プロジェクトメンバー間で社内の課題を共有すると共に、当社グループの高い技術や環境戦略製品は強みだということを改めて知ることができ、改善すべき課題とより伸ばしていきたい強み両方を盛り込めたと思います。



プロジェクト開始当初、「企業理念を作り変えたところで何が変わるのか？」と懐疑的でしたが、メンバーと意見を出し合いながら進める中で、「それでも」と手を伸ばすことが重要だと思うようになりました。「私たち社員が自分自身で変えていく」という想いを込めました。



社員が立ち戻って仕事に取り組める指針であると同時に、当社グループの製品、技術を生かした新しいことへの挑戦を後押しする、グループが成長していくためのベースとなる考え方を提供できたらいいなという思いを込めました。



■ 管理本部長コメント

MVV作成に携わったメンバーや事務局の皆さんは、通常業務も行いつつも半年間のプロジェクトをやり遂げてくれました。プロジェクトを通じて、これからの当社の根幹となる素晴らしい経営指針が出来上がったと感じています。議論を見学した際、我々の世代が若い時にこんなプロジェクトがあったら、どんな経営指針を考えたか、それによって今どんな会社になっていたのか、と想像し、メンバーの皆さんをうらやましく感じました。

若手・中堅メンバーが議論を重ね、何度も修正を重ねながら完成させたMVVです。このMVVを星光PMCグループ全体にしっかりと根付かせることで、今後永きにわたるグループ発展の指針としていきたいと考えます。



管理本部長
河野 宏治

星光PMCグループのサステナビリティ

星光PMCグループは、事業環境の不確実性増大や企業に求められる社会要請の質的・量的な高まりを受け、「環境・社会の持続可能性向上」と「持続的な企業価値向上」の好循環を目指すため、重要な経営指針として、サステナビリティ基本方針を制定しました。

サステナビリティ基本方針

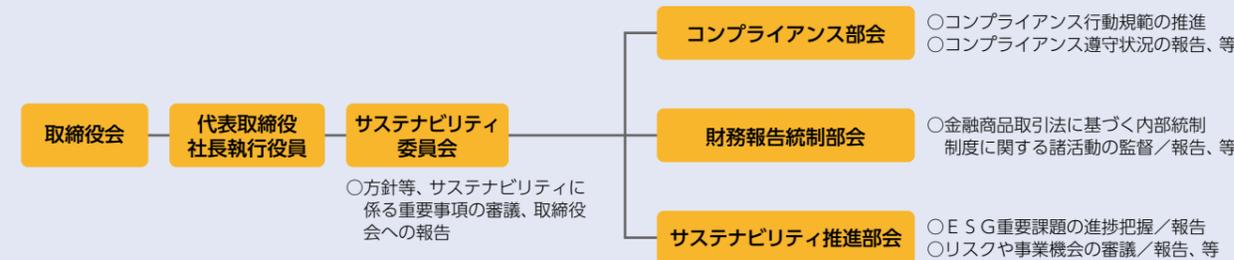
星光PMCグループは、環境・社会の持続可能性向上に貢献しつつ、自らも持続的に発展することで、グローバルに企業価値向上を目指します。星光PMCグループは、次の5項目を意識した事業活動を推進します。

- (1) 地球環境への配慮とリスクマネジメント
- (2) 新たな技術の創造による環境・社会・経済的価値の創出
- (3) 人権・ダイバーシティの尊重、安全・健康への配慮を通じた働きやすい環境・風土
- (4) ステークホルダーとの対話と価値協創による良好な関係構築
- (5) 法令遵守と適正なグループガバナンス

サステナビリティ推進体制

星光PMCグループのESG経営推進のため、これまでの内部統制推進委員会を発展的に改組し、サステナビリティ委員会を2022年1月1日付けで発足しました（代表取締役社長執行役員を委員長とし、常勤取締役、執行役員、常勤監査役を中心とした構成）。同委員会は、ESG経営の審議機関として、サステナビリティに係る基本方針や重要課題、

その他重要事項を審議するとともに、内部統制をはじめとするサステナビリティ活動の現状を把握し、取締役会へ報告・提言を行う役割を担います。また、実行機関として、コンプライアンス部会、財務報告統制部会、サステナビリティ推進部会の3部会をサステナビリティ委員会の下に設置しています。



(2024年1月現在)

ESG重要課題と取り組み状況

星光PMCグループではSDGsの枠組みを活用してマテリアリティの特定を行い「ESG重要課題」として取り組みを進めています。

サステナビリティ基本方針	ESG重要課題	取り組み	関連SDGs
(1) 地球環境への配慮とリスクマネジメント	気候変動対応	GHG排出量削減（Scope1+2）、非化石エネルギーの利用拡大、生物多様性の保全等	7 気候変動、9 産業と資源効率、13 気候変動
	化学物質の適正管理の推進	新化学物質管理システムの導入によるマネジメント向上	3 健全な働き場、11 持続可能な消費と生産、12 持続可能な消費と生産
	リスクマネジメント	BCPの策定と更新	12 持続可能な消費と生産
(2) 新たな技術の創造による環境・社会・経済的価値の創出	サーキュラーエコノミーへの取り組み	環境戦略製品の拡販、グリーン購入の推進、外部最終埋立処分量の削減	9 産業と資源効率、12 持続可能な消費と生産、14 気候変動、17 持続可能なパートナーシップ
	DX	DX人材育成、DX意識・風土の醸成	8 持続可能な働き場
(3) 人権・ダイバーシティの尊重、安全・健康への配慮を通じた働きやすい環境・風土	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	女性・海外人財・シニア人財・障がい者の活躍推進、働き方改革、従業員エンゲージメントの把握と向上等	5 働きがい、8 持続可能な働き場、10 働きがい
	労働安全衛生の更なる向上	無事故無災害の達成に向けた取り組み、安衛法改正対応（自律的管理）	3 健全な働き場
	人材育成・組織づくり	若年層ジョブローテーション、中長期的課題への対応を見据えた新卒・即戦力採用の実施	8 持続可能な働き場
(4) ステークホルダーとの対話と価値協創による良好な関係構築	持続可能な原材料調達の推進	サプライチェーン上での人権侵害把握努力、グリーン調達の実施、複数購買の推進	8 持続可能な働き場、12 持続可能な消費と生産
	品質マネジメントの向上	安全環境品質監査の実施、試験表発行システムの導入等	12 持続可能な消費と生産
	ステークホルダーコミュニケーション	非財務情報の開示推進、従業員コミュニケーションの強化	16 公正な働き場
(5) 法令遵守と適正なグループガバナンス	グループガバナンスの強化	内部統制の効率化・強化	16 公正な働き場

2023～2024年上期取り組み状況

GHG削減

参照
P.21

各工場で全エネルギーの1%を削減する活動を行っているほか、静岡工場、千葉工場の再生可能エネルギー割合が100%となったことなどから、前年と比較して、GHG排出量のうちScope1+Scope2の割合が9%減の結果となりました。

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

参照
P.32

女性労働者に対する活躍推進の取り組みが優良であると認められ、えらぼし1つ星を獲得しました。また、23年には初めてエンゲージメント調査を行い、従業員のニーズや事業所の状況把握に努めました。

24年にはDEI推進室を立ち上げ、組織的・計画的にダイバーシティ推進を行っていきます。

人材育成・組織づくり

2024年上期より、社内の人事制度、人材育成体系の見直しを開始し、社員がよりモチベーション高く働くことができ、人材育成の一助となるような仕組みを検討しています。

従業員コミュニケーション

従来の社内報に加え、より柔らかく社内の情報を伝える社内報ECHO（エコー）の発行をスタートし、従業員コミュニケーションの強化に努めました。24年下期にはオンライン社内報の導入も予定しています。

企業情報

■ 会社概要

商号： 星光PMC株式会社

設立： 1968年1月

代表者名： 代表取締役社長執行役員 菅 正道

本社所在地： 東京都中央区日本橋本町3丁目3番6号

資本金： 1億円

従業員数： 759名（2023年12月31日現在）
※グループ会社、再雇用社員、嘱託社員、契約社員を含む

事業内容： 紙力増強剤・サイズ剤等の製造・販売
印刷インキ用樹脂・記録材料用樹脂等の製造・販売
合成樹脂・化学工業品およびその関連製品の製造・加工および販売

グループ会社： KJケミカルズ株式会社（東京都中央区、化成品事業）、
KJケミテック株式会社（熊本県八代市、エンジニアリング）
株式会社マリンナノファイバー（鳥取県鳥取市、樹脂事業）
星光精細化工（張家港）有限公司（中国江蘇省張家港市、製紙用薬品事業）
星悦精細化工商貿（上海）有限公司（中国上海市、製紙用薬品事業および樹脂事業）
新綜工業股份有限公司（台湾桃園市、樹脂事業）
SEIKO PMC VIETNAM CO., LTD.（ベトナムバリアンタウ省、製紙用薬品事業）

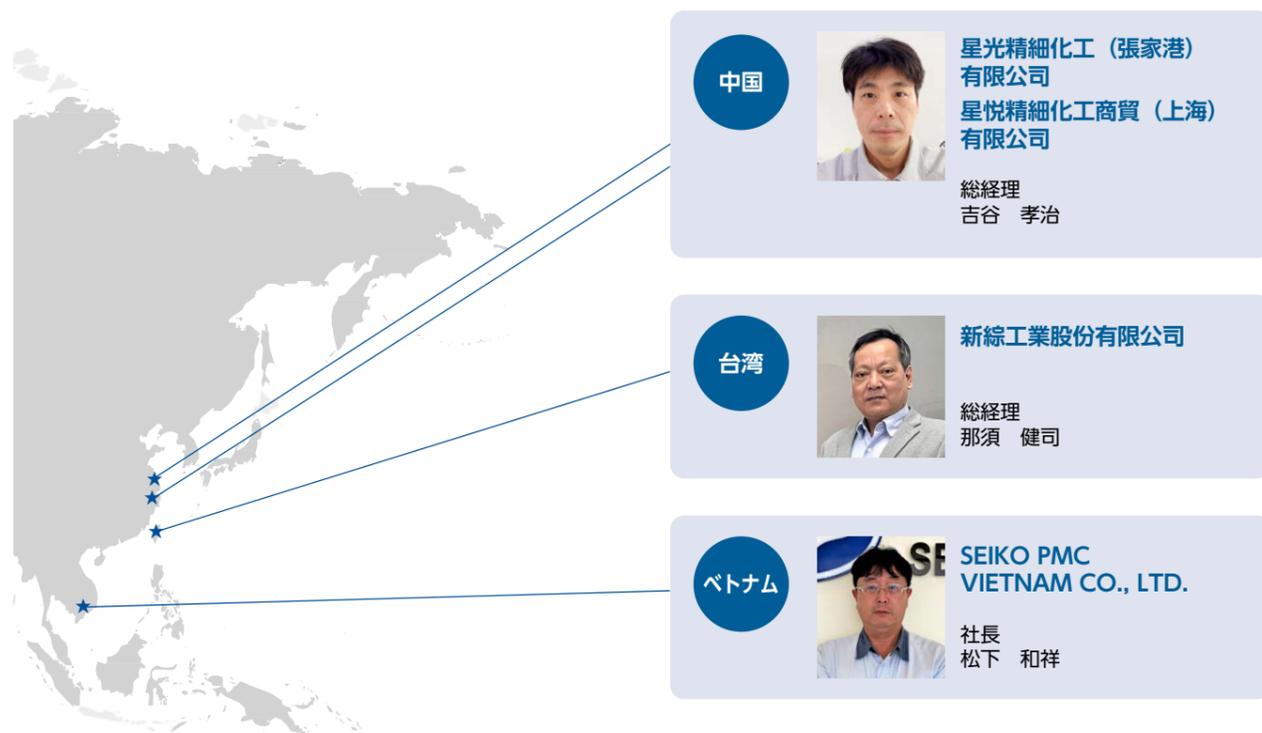


本社（ワカ末ビル 8F）

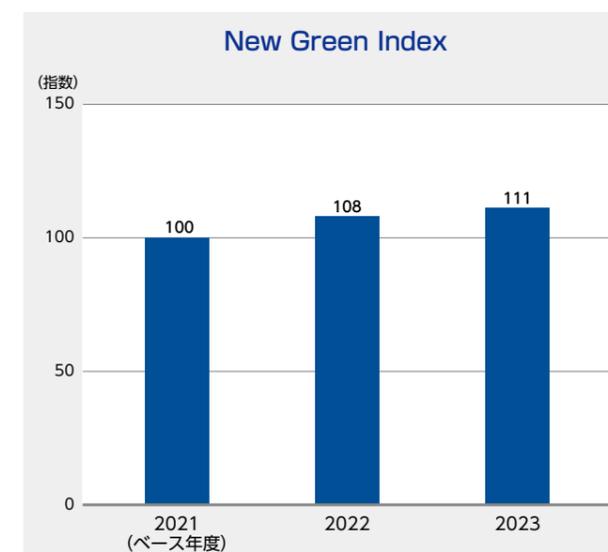
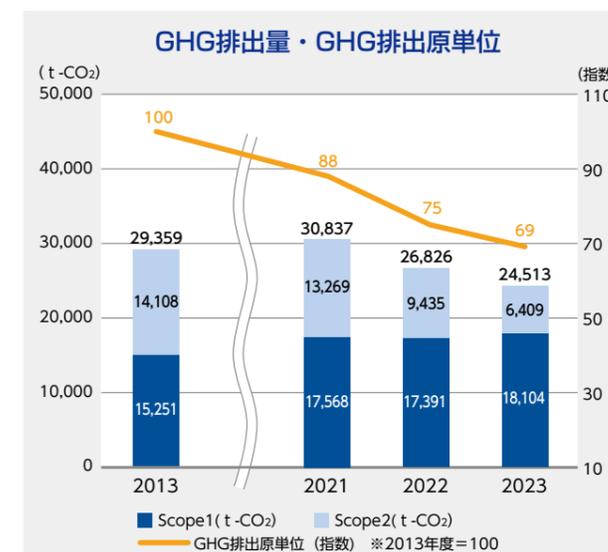
■ 国内ネットワーク

国内事業所については、HPをご参照ください。 <https://www.seikopmc.co.jp/info/network/>

■ 海外ネットワーク



財務・非財務ハイライト



※New Green Indexとは環境戦略製品の売上高指標を指します。
(参照：P.18、22)

社史・事業概要

星光PMCグループの歴史

1968年 日本PMC*

*設立時はディック・ハーキュレス

- ・1968年 湿潤紙力剤 販売開始
- ・1970年 中性サイズ剤 販売開始
- ・1972年 ロジンエマルジョンサイズ剤 販売開始



製紙・印刷業界での環境貢献

- ・古紙リサイクル回数増加
- ・製紙工程での環境負荷低減

1951年 星光化学工業

- ・1953年 製紙用サイズ剤 販売開始
- ・1962年 印刷インキ用樹脂 販売開始
- ・1965年 製紙用紙力増強剤 販売開始
- ・2001年 ミサワセラミックス化成産品事業部門統合

2003年 星光PMC

【グローバル拠点の拡大】

- ・2005年 星光精細化工（張家港）有限公司設立
- ・2006年 星悦精細化工商貿（上海）有限公司設立
- ・2019年 SEIKO PMC VIETNAM CO., LTD.設立

【新規環境貢献技術の開発】

- ・2014年 銀ナノワイヤ生産設備建設
- ・2014年 セルロースナノファイバー実証生産設備建設
- ・2023年 バイオフィルムコントロール技術を利用した医療機器用洗浄剤BAKU 共同開発、販売開始

【グループ会社増加】

- ・2014年 K Jケミカルズ
→ 化成産品事業が第三の柱に
- ・2019年 新綜工業
→ 環境に優しい粘着剤 取扱開始
- ・2023年 マリンナノファイバー、K Jケミテック
→ マリンナノファイバー社にて、
キッチンナノファイバー 取扱開始

多事業・多業界への展開

- ・水資源の有効利用
- ・製造過程のVOC削減
- ・脱プラスチック



2024年 星光PMC

新たな経営体制の元、経営理念を刷新

事業の概要

星光PMCグループは、製紙用薬品、樹脂、化成産品、粘着剤等の領域で事業を行っています。いずれの事業にも共通するのは、有機化学をベースとした事業であること、高品質製品を安定供給できる技術力があること、環境貢献を重視した製品展開を行っていることの3点です。

また、各事業の製品は、多くの方が日常的に使う紙、印刷物、段ボール、シャンプー、ジェルネイル、包装材、スマートフォンの保護フィルムなど多くの生活用品の製造過程で使用されており、お客様の物作り支援を通じて、一般消費者の生活を支えています。

日本ではトップシェアを誇るニッチトップ製品を多数保有していますが、「ここちよい生活」を世界に広げていくため、アジア圏を中心とした海外展開にも注力しています。



製紙用薬品事業



多様な製品開発に注力し、環境・社会に貢献



製紙用薬品事業部長
村田 満広

「紙」は環境にやさしいサステナブルな素材として様々な用途で活用されます。そしてほぼ全ての紙は、強度の向上や耐水性の付与など、目的に応じた様々な機能を付与するために「製紙用薬品」が使用されます。当社は、製紙用薬品の国内売上トップ企業として、時代のニーズを的確に捉えた製品開発に努めています。また海外展開にも注力しており、紙・板紙の生産量が世界一である中国、成長著しい東南アジアでの生産・販売体制を強化し、事業展開を加速しています。今後も国内外の紙・板紙需要の動向を見極め、高付加価値製品や環境配慮型製品を提供し続けることで、環境・社会に貢献していく所存です。

主要製品

乾燥紙力剤

紙の強度を高めます。
段ボール、紙器用板紙、印刷・情報紙など、様々な紙製品に使用されます。



サイズ剤

紙に疎水性を付与し、液体の浸透を抑制します。
印刷・筆記用紙のしみ止めはもちろん、食品容器や段ボール等、様々な紙の耐水性向上に使用されます。



湿潤紙力剤

紙が水に濡れても破れにくくします。
ティッシュペーパー、タオルペーパー、野菜用段ボールなどに使用されます。



風合向上剤

紙に、柔らかさや肌触りの良い風合いを付与します。
ティッシュペーパー、トイレトペーパーなどの家庭紙に使用されます。



2024の注目製品

環境や健康に優しい非フッ素系耐油コート剤

耐油コート剤はファストフードの包装紙など耐油性が必要な紙に使用されます。当社が開発した非フッ素系耐油コート剤SEIKOAT®-G T-EF201は、バイオマス原料95%以上であり、かつ非フッ素系でありながら、紙の通気性を高く維持可能であるという特徴を持ちます。近年健康や環境への懸念があるとされる有機フッ素化合物の代替素材として市場の反響も大きく、採用に向けて各所で検討をいただいています。

VOICE

乾燥紙力剤は日本の物流を支える縁の下の力持ち

私は紙の強度や紙製造時の生産性を向上させる乾燥紙力剤の開発を行っています。現代の物流に欠かせない段ボールは、リサイクル率が95%とエコな梱包材としても知られています。一方でリサイクルを繰り返すことで、紙の強度や紙製造時の生産効率が低下するという弊害が生じます。この問題を解決する目的で乾燥紙力剤が使用されています。すなわち、乾燥紙力剤は「環境に優しく、日本の物流を支える縁の下の力持ちのような製品」と言えます。

日々の業務では国内外のユーザーからの要望にスピーディーかつ的確に製品開発を行うことが求められます。その中でも、「こうやって面白くないか」と新規な分析方法や合成方法を取り入れ、独自性のある製品開発を行っています。自分で苦労して開発した製品の入った段ボールを最終製品として手に取ることができるのがこの仕事のやりがいです。



製紙用薬品事業部
技術統括部
平川 文弥

樹脂事業



樹脂事業部長
出田 一哉

多彩な重合・変性技術で先進的な製品開発を加速

星光PMC (株) 樹脂事業部は独自の高分子アクリル重合技術、樹脂変性技術をベースに、印刷用インキの生産性向上や印刷物の美粧性向上に貢献する水性インキ用樹脂を展開しています。また、トナーやインクジェット等のデジタル印刷向け樹脂も多く取り揃えています。

さらに、これら技術を応用し、機能性コーティング用樹脂、塗料用樹脂、粘着剤など幅広い分野で環境対応に即した樹脂製品を提供しています。

2019年より連結子会社化した台湾の新綜工業股份有限公司や中国の主要拠点である星悦精細化工貿 (上海) 有限公司と連携し、海外展開を強化しています。

製品

パッケージ向け水性樹脂 (インキ用、機能性コート剤用)
デジタル印刷向け記録材料用樹脂
建材塗料用水性樹脂
先端電子材料向け粘着剤



2024の注目製品

インキのカーボンニュートラルに貢献 | 水性バイオマスエマルジョン

近年、植物由来の原材料を使用した「バイオマスインキ」の需要が拡大しています。当社では、インキの重要原料である水性エマルジョンに関して、澱粉、油脂、樹脂など種々のバイオマス材料をスチレンアクリル樹脂と複合化し、カーボンニュートラルとインキ性能を両立しました。

脱プラスチック・紙化を実現 | 紙用機能性コート剤 SEIKOAT®

脱プラ/減プラに向けて、紙パッケージの可能性を広げるための製品開発を行っています。例えば、紙コップのリサイクルや生分解を可能にするために、紙コップ中のプラスチックと同じ機能を発現するコート剤や、煎餅等の湿気に弱い物品用のプラスチック包装を紙包装で実現するための防湿コート剤を開発し、日本や中国、東南アジアでトライアルを進めています。



先端電子材料の省エネ・GHG 削減に貢献 | UV 硬化型粘着剤 【新綜工業股份有限公司】

粘着剤は、半導体製造や電気自動車・スマートフォンなどに使用されるディスプレイといった先端電子材料に必須の製品です。有機溶剤を使用する粘着剤は環境に悪影響を与えるため、有機溶剤を使用せず環境配慮したUV硬化型粘着剤を開発し、中国を中心に販売展開しています。

VOICE 台湾新綜工業への長期出張で粘着剤の改良を目指す

私は新綜工業で粘着剤の合成技術を学んでいます。入社当初から海外勤務を希望し、2年目で長期の海外出張の機会を得ました。粘着剤について学んだことは無かったので毎日が勉強の日々ですが楽しめています。お客様の要望を満たす粘着剤を作るプロセスは、モノマーの配合や反応温度等の処方を考え、重合・評価をして、改良点を探すというサイクルで進みます。特定のモノマーが多いと粘着剤が硬くなるといった発見があり、そういった気づきが特に面白いです。

台湾での生活は不便なこともあります。楽しい面もあります。言語の違いにより意図が伝わらないことも時折ありますが、お互いにコミュニケーションを取ろうという気持ちがあれば大体の場合は意思疎通ができます。また、趣味の合う現地の友達ができたと、その友達と色々な場所に遊びに行くのが楽しみの一つとなっています。



技術本部
永峰 史琉

化成品事業



KJケミカルズ株式会社
代表取締役社長
丸山 学士

アクリルアミド誘導体合成技術を武器に、多様なニーズに対応した高付加価値製品の開発を推進

KJケミカルズ株式会社は、日本初のレーヨン・パルプ専門メーカーである株式会社興人の化成品事業から始まった会社です。アクリルアミド誘導体を中心として、独自の合成技術でさまざまな機能性モノマーやオリゴマー、および溶剤を手掛けています。

星光PMCグループに参画してからは、技術交流並びに人的支援を受け、新製品開発も大きく進みつつあります。今後も、安全・安心、環境配慮ニーズに対応すべく、バイオマスモノマーをはじめとする機能性材料のラインナップ拡充に注力し、多様なニーズに応えることでグローバルに持続可能な社会の実現に貢献していきます。

製品

▶ 機能性アクリル系モノマー

Kohshylmer®
ACMO®, DMAA®, DEAA®, HEAA®, NIPAM®, DAAM 他



▶ UV硬化性樹脂

Quick Cure®
(クイックキュア®)
Kohshylex®
(コーシレックス®)

UV硬化型コーティング剤、インクジェットインキ、3D関連樹脂、コンタクトレンズ、光学用粘着剤、水系塗料などの高機能化に利用されています。



▶ 機能性アミド溶剤

Kohshylvent®
KJCMPA®-100、KJCBPA®-100 他



高い溶解性と安全性を持ち、ポリアミドイミド、ポリイミド、ポリアクリレート等の難溶性ポリマーの重合溶媒やNMP代替溶剤として利用されています。

2024の注目製品

持続可能な社会を目指して～環境配慮、安全性を重視した新製品の拡充

Kohshylmer®から、新たにバイオマス原料を使用した商品「NOAM」を開発し、今年度より市場開拓を行っています。Quick Cure®、Kohshylex®においては、安全性の観点から使用の規制が強まっている光開始剤の市場を代替することを目指し、安全性が高く、より高速硬化が可能な開始剤を開発し、現在顧客評価を進めています。Kohshylvent®では、環境負荷や生殖毒性(催奇形性)が懸念されるNMP (N-メチルピロリドン) やDMF (ジメチルホルムアミド) の代替溶剤として、各種合成樹脂の反応溶剤や農業用途にグローバルに展開しています。

VOICE 熊本から世界へ！環境・安全にこだわった製品を発信

2024年1月に新機能性材料展、2月にくまもと産業復興エキスポ、5月には米国のインディアナ州で開催されたアメリカンコーティングショーに出展しました。多くの方々に来場いただき、環境・安全ニーズに対応した当社製品に多くの関心をいただきました。私たちの工場は熊本県の八代市にあります。そこからアジア、欧州、北中南米など世界各国に向けて当社の製品を日々輸出しています。製品の用途は多岐に渡りますが、機能性に加え、環境への負荷低減や高い安全性が認められ、海外への輸出は年々増えています。今後も展示会やSNSを通じて、情報発信やユーザーとの情報交換を積極的に行いながら、より優れた機能性化学品を提供し、世界に認められるブランドを目指していきます。

アメリカンコーティングショーでの様子



KJケミカルズ
営業部
寺本 広司

R&D、知的財産投資

「暮らしをこちよく、みらいをあたらしく」、私たちの製品は印刷物、段ボール等に姿を変えて快適な暮らしを支えています。そして、環境を守り、未来の生活を豊かにする新素材の開発を通じて、持続可能な未来を実現します。

■ 研究開発方針

地球温暖化、環境汚染、化石資源枯渇など地球が直面する様々な環境問題は、私たちの経済活動が要因となって発生しています。企業自身が持続していくためにも、ビジネスモデルそのものが持続可能な社会に向けたものでなくてはなりません。そのような社会背景において、①リサイクル促進、②エネルギー低減、③低環境負荷、④排水浄化、⑤天然素材活用の5つを研究開発の注力分野と定めました。グループ内の技術の融合や外部機関との連携、オープンイノベーションの積極的な活用などにより、この分野に新たな「エコテクノロジー」を創出し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

■ データ

星光PMCグループの研究開発に関連するデータは以下の通りです。特許件数においては、特に海外知財の比率を高めるよう努めています。

また、研究開発に力を入れており、研究開発員は対従業員比率で20%を超えた状態を維持しています。

国内研究開発拠点



■ 知的財産部トピックス

知的財産部では、知的財産や化学物質管理の面から、R&Dおよび知的財産投資の支援をしています。

化学物質管理システムの導入

化学物質の安全性への社会的関心の高まりと、国連で勧告されたGHS（化学品の分類および表示に関する世界調和システム）に基づく国内外の規制の整備が進んだことを背景に、当社では2009年に国内向け、2014年には海外向けの化学物質管理システムを導入しました。さらに2024年度より、ますます複雑化する国内外の化学物質管理業務に対応するために星光PMCグループとして新たな化学物質管理システムの導入を進めています。当社グループは、化学物質のR&Dに携わる企業として、法規制への適応と化学物質によるリスク低減を目指し、迅速かつ正確な情報提供を通じて、化学物質を取り扱う企業としての責任を果たしてまいります。

保有特許価値評価の見直し

企業の無形資産、特に特許は企業価値に大きな影響を与えるため、その資産価値の評価は重要です。しかし特許資産は無形であるが故にその資産価値の算定は容易ではありません。当社は保有特許の資産価値を適正に評価するため、次の3つの指標を用いて数値化する方法を構築しました。①パテントスコア：(株)パテント・リザルト社の指標に基づくスコア②売上スコア：対象製品の競争力・求心力③将来性スコア：残存保有期間中の上市・売上貢献期待度

これにより、パテントスコアだけでは推し量れない特許の他社製品排除力、当社製品競争力および新製品を生み出す可能性を反映した「真の資産価値」を算出し、当社の特許の資産価値の適正な評価を行います。

■ 社外発表・講演実績

タイトル	著者・講演者	学会・雑誌
水中での酸化チタンの分散性に及ぼすアクリル系樹脂の官能基の影響	西川 宗男、寒風 公晴、小関 敏生	2023年度 色材研究発表会
交絡を許容するLiNGAMを用いて料理のノウハウを可視化する	外城 稔雄、鈴木 謙 (大阪大)	2023年度 統計関連学会連合大会
抄紙工程向上剤 PM シリーズ	山戸 海里、久米田 和寛	紙パルプ技術タイムス7月号
両性アクリルアミド共重合体の高性能製紙用添加剤	山戸 海里、久米田 和寛	第90回紙パルプ研究発表会
脱化石資源、循環型低炭素社会の実現を可能とするセルロースナノファイバー配合樹脂 [STARCEL®]	寺尾 雄也	コンバーテック 3月号
脱プラスチックを推進する機能性コート剤 [SEIKOAT®]	藤原 康史	色材協会 色材マテリアル講座
CNF 配合樹脂の特徴と応用展開	佐藤 明弘	3DECOTech (加飾技術) セミナー

■ 中国語版 Technical Review の公開

星光PMCグループでは研究開発の成果を学会や雑誌投稿以外に「Technical Review」として当社ホームページ上に公開しています。より多くの方にご覧いただけるように、日本語版のほかに英語版を公開していましたが、2023年より新たに中国語版も掲載を開始しています。2023年は下記5件の中国語版Technical Reviewを公開しています。

タイトル
水性生物質乳液开发
PAE 型起皺粘缸剂的特征及涂膜物性
纤维素复合树脂“STARCEL®”在结构材料中的应用
阻碍群体感应的新型生物膜抑制剂
树脂施胶剂的改良与 FCN 获准的「FA 系列」简介

VOICE 学会発表から広がった研究の可能性

当社は研究成果を主に学会発表や雑誌投稿の形で外部に公開しています。今回私は当社が開発した、紙の製造プロセス効率化とエネルギー削減が可能な新規製紙用薬品について発表をしました。温室効果ガスの削減は多くの業界が抱える課題であり、この成果は紙パルプ業界全体にその新たな解決法を提供できるものだと考えています。開発には多くの苦勞がありました。チーム一丸となり実験とデータ解析を重ね、困難を乗り越えてきました。さらに学会発表まで漕ぎつけられたことはとても嬉しく思っています。

学会当日は予想以上の反響で、多くの方々から質問や提案をいただき、研究開発の新たな方向性も見えてきた気がします。また発表後にはお客様から多数お問い合わせをいただき、今後多くのお客様の課題解決に貢献できればと思っています。

現在は製品のさらなる改良のために新たな実験もスタートさせています。今後も環境に優しい製品の開発を通して、社会に貢献していきたいと思っています。



製紙用薬品事業部
技術統括部
山戸 海里

製品を通じた環境貢献

■ 製紙業界の「リサイクル」を支える製紙用薬品

星光PMC(株)では紙の生産性や製造時のエネルギー削減が可能な製紙用薬品のほか、紙に様々な機能性を付与することができる製紙用薬品の提供を行っています。

近年では、プラスチックによる海洋汚染やマイクロプラスチックの問題がクローズアップされており、プラスチックの代替素材として紙に注目が集まっています。紙は環境中に流出しても、微生物の働きでその多くは分解するため、環境調和型の素材と言えます。また、身のまわりにある紙の原料はパルプであり、これは主に木材から得られるものです。木材は植林によって増やすことができる持続可能な資源であり、そこからできる紙はリサイクルによって、新たな紙へ生まれ変わることができる循環型の素材です。



日本の古紙（一度使用された紙）の利用率は世界でもトップクラスを誇ります。日本では使われた紙の多くはリサイクルされて、再び紙として生まれ変わり、身の回りで使われることが当たり前となっています。実はその当たり前を実現するために一役買っているのが、製紙用薬品なのです。

紙はリサイクルを繰り返すにつれて、どんどんパルプ繊維が劣化していきます。そのため古紙の利用率が高くなってくると、得られる紙の強度を保つことが難しくなります。そこで紙の強度を補う手段の一つとして、乾燥紙力剤が使用されます。乾燥紙力剤はパルプ繊維間の水素結合を補強する効果があるため、古紙利用率が高い条件においても、十分な強度の紙を作ることができます。まさに日本の紙リサイクルの縁の下の力持ちとも言える薬品です。



■ お客様の「エコ」と「安全」に貢献する製品群

星光PMCグループでは独自の選定基準に基づき、環境に優しい製品を環境戦略製品として定めています。それらは環境に優しいだけでなく、お客様のエコな製品開発や作業環境の安全に貢献するものなど様々なラインナップがあります。

SEIKOAT® シリーズ



SEIKOAT®シリーズは紙に塗工することで、脱プラスチック・紙化を推進するための機能を付与できる水性コート剤です。紙本来のリサイクル性も損なわないため、サーキュラーエコノミーへの貢献も期待できます。

バイオマスインキ / 水性インキ用樹脂



VOC（揮発性有機化合物）は人体や環境への悪影響が懸念されるため、有機溶剤を用いない水性インキ用樹脂の拡販を進めています。さらに水性インキ中にバイオマス成分を導入可能な、バイオマスインキ用樹脂も展開しています。

バイオフィルムコントロール剤 (BFC 剤)



バイオフィルム (BF) の抑制・除去は水資源の利用や衛生、医療において、重要な課題です。BFC 剤は細菌の生理機能に作用し、BF 形成を阻害します。またBFC剤の技術をベースにバイオフィルム除去剤「BAKU」を共同開発し、医療器具をターゲットに展開しています。

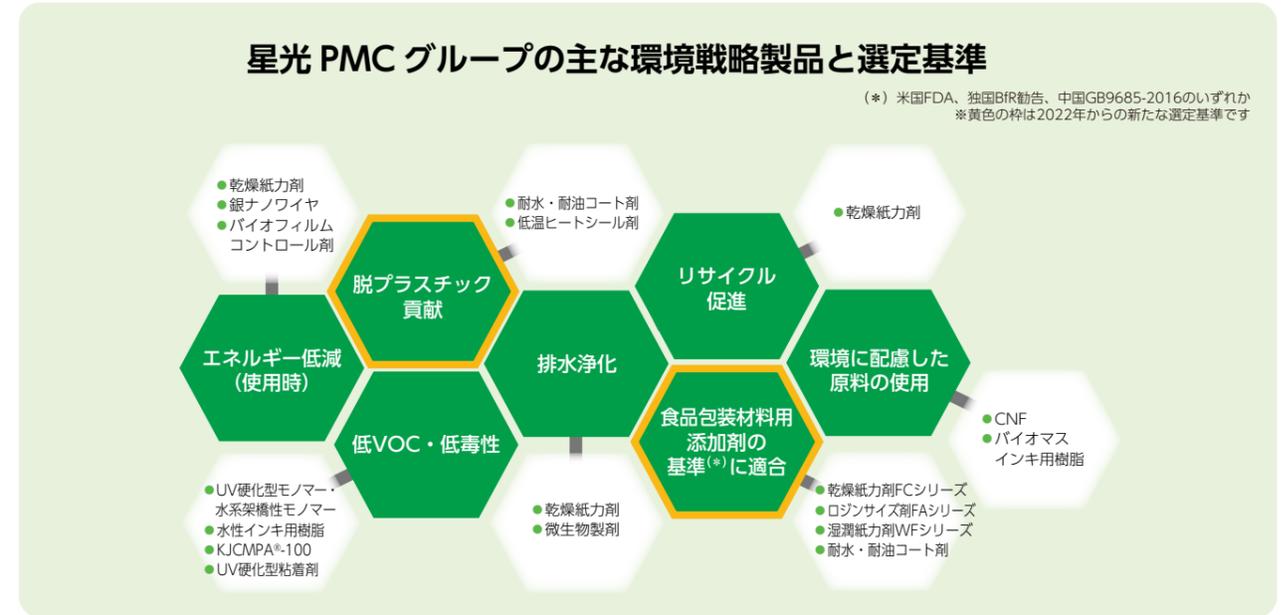
KJCMPA®-100



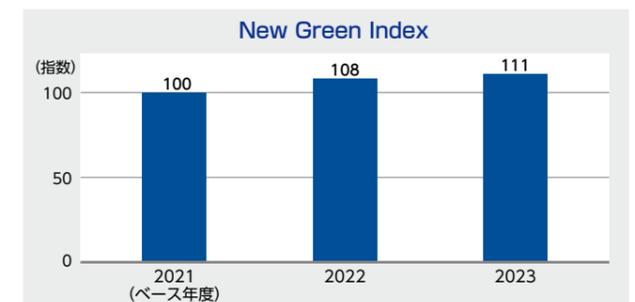
溶解性の乏しいポリイミドの溶剤としてNMPやDMFが使用されますが、それらの溶剤は生殖毒性（催奇形性）が懸念されています。KJCMPA®-100はNMPに近い溶解性を持ちながら、催奇形性は示さない溶剤であり、NMPの代替溶剤としてニーズが高まっています。

■ 環境指標「New Green Index」

古紙リサイクル利用率・回収率で世界トップクラスを誇る日本で、星光PMC(株)は長年、製紙業界等への貢献を通じて環境保全に尽力してきました。例えば、紙力剤を製紙工程で利用することで、紙を再生利用できる回数が増え、「木」という資源を大切に使い続けることができます。こういった形で、これまで事業の中で当たり前に行ってきた環境貢献をより意識し、多分野に広げていくために、「New Green Index」という指標を設けました。



当社グループは旧経営ビジョン「エコテクノロジーで未来を創る」および旧長期ビジョンVISION2030のもと、環境戦略製品を独自に選定するとともに、環境戦略製品の2021年度の売上高を100とする「New Green Index」を導入し、環境戦略製品の売上高向上に努めています。2023年の「New Green Index」は111となり、前年より3ポイント高まっています。

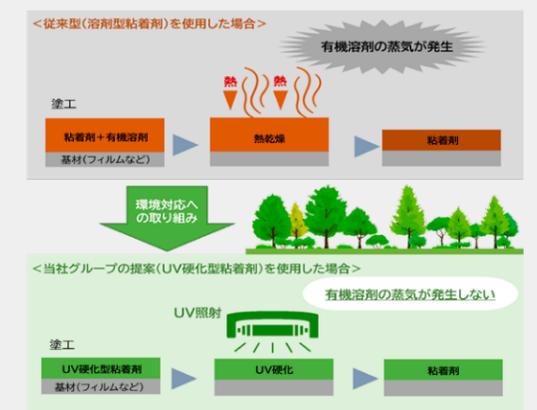


特集 無溶剤 UV 硬化型粘着剤 (新綜工業股份有限公司)

粘着剤の中でも、半導体やスマートフォンなどの先端・高度な産業に使用される粘着剤は、性能・コストの両面に優れたアクリル樹脂をトルエンなどの有機溶剤に溶解した、従来型の溶剤型粘着剤が主流となっています。

一方、トルエンなどの有機溶剤は、右図に示すように、熱による乾燥工程で発生する有機溶剤の蒸気が、作業者の健康に影響を与えたり、光化学スモッグなど環境汚染の要因となります。

当社グループの新綜工業股份有限公司では、これらの課題を解決する粘着剤として、溶剤を使用しない、UV硬化型粘着剤を市場に提案しています。



若手・中堅研究員オンライン座談会

～環境貢献への想いを語る～

「環境貢献」を重視する経営を長年行ってきた星光PMC。実際に「環境貢献」への意識がどのように研究活動に組み込まれているのか、若手研究者の皆さんへのインタビューを通じてお伝えします。

担当する環境貢献製品とその用途

—— 担当製品が環境にどのように貢献するものであるのか教えてください。

蝦名：私はバイオフィルムコントロール剤の開発をしています。バイオフィルムとは水回りにできる“ぬめり”で、細菌由来のもので。これが発生すると工業的に様々なトラブルの原因になるので、細菌にバイオフィルムを形成させないコンセプトで開発されたのがバイオフィルムコントロール剤です。真継：例えばこれをうまく使えばお風呂場の赤いぬめりが発生しなくなるイメージですか？

蝦名：その通りです。産業向けや家庭向けなど、色々なところに展開していきたいと思っています。

田中：私はセルロースナノファイバー（CNF）複合材料の開発を行っています。CNFの配合で材料強度が向上すれば、使用されるプラスチック量を減らせたり、軽量化による運搬時の温室効果ガス削減など、環境への良い影響が期待できます。私は特に軟質材料とセルロースの複合化を検討しているところです。

砂田：当社CNFを使用した発泡体がランニングシューズのミッドソールで使用されているというお話はよく聞いているのですが、他にはどんな用途を想定していますか？



星光PMC (株)
CNF事業推進部
田中 航平

田中：これまでとは別の材料の発泡体での用途を検討中です。CNFとの複合化で発泡体の強度が上がるので、強度同等で良ければ空気を増やせるんです。それによる軽量化や断熱性向上などの利点を強みに用途を探索しています。

砂田：私はKJケミカルズでUV



KJケミカルズ (株)
研究開発部
砂田 一成

硬化性のウレタンオリゴマーの開発をしています。これで作ったインキはUV照射で固まるため乾燥の工程が必要なく、使用時のエネルギーを大幅削減できます。無溶剤系なのでVOC(揮発性有機化合物)が発生せず環境にも優しいです。

真継：こういう材料って身近なところではどのような用途があるのですか？

砂田：例えばコーティングの材料としても使えるので、身近なところだとジェルネイルには使えると思いますね。

グエン：私は乾燥紙力剤の開発をしています。乾燥紙力剤は当社の中で生産量が多い製品なので、この製品に使用しているエネルギーはとても多いです。私は新しい製造プロセスを研究し、製造に必要なエネルギーの大幅削減を目指しています。

蝦名：乾燥紙力剤は紙製造時のエネルギー削減に貢献している製品ですが、それが環境により優しいプロセスで製造できるかもしれないですね。

真継：私はSEIKOAT®という脱プラスチックを促進する水性コート剤を開発しています。例えば紙コップはラミネート加工といって、紙表面をフィルムで覆う加工がされています。コップの耐水性や成型時の接着に必要な一方、紙リサイクルの邪魔になっています。これを水性コート剤で代替するために検討しています。

田中：水性コート剤で作った紙コップであれば通常の紙と同じようにリサイクルできるんですか？

真継：そうですね。紙はリサイクル時にパルプ繊維を分散状態に戻さないといけないのですが、水性コート剤を使用したものは普通の紙のように分散することが実験で確認で

きています。

製造エネルギー低減に貢献する製品開発

真継：環境貢献と言っても方法は様々ですが、グエンさんの話を聞いて製品を作るときの環境貢献ということは今後もっと目指さないといけないと感じました。

田中：製品のLCA(ライフサイクルアセスメント)にも関わりますよね。私が所属している部署ではお客様からも製品のLCAについてお問い合わせいただくこともあるので。

真継：製造時のエネルギー削減はもちろんですが、今後は例えば製造時のエネルギーを自社で賄えるようにしたりとか、さらに進んだ取り組みも必要になるかもしれませんね。

グエン：私は砂田さんのUV硬化インキが気になりました。使用時のエネルギー削減の面で大きなメリットを感じたのですが、普及に課題はあるのですか？

砂田：UV照射用の光源が必要になるので、光源がない場合は追加の設備投資が必要になるところが課題です。それから最近では、UV硬化に必要な特定の低分子光開始剤について安全性が懸念されているところもあるので、そこも対応が必要かと思っています。実はKJケミカルズでは、より安全に使用できる高分子光開始剤も開発していて、私はその



星光PMC (株)
製紙用薬品事業部
蝦名 雄貴

開発にも携わっているんです。

蝦名：面白いですね。高分子光開始剤であれば、UV硬化させるだけでなく、高分子部分に由来する機能も付与できたりもするのですか？

砂田：できます。耐溶剤性を付与するとか、より強靱な硬化物にするとか、色々考えられます。

水性、バイオマスなど、環境への負荷を減らす製品作り

—— 開発や製造の現場における環境についての取り組みを教えてください。

真継：私が所属している樹脂事業部はインキ用の樹脂を開発していますが、油性よりも水性インキ用樹脂に力を入れています。身体にも環境にも優しくない溶剤はなるべく使わないようにということですね。

蝦名：私も真継さんと同じく水系での製品開発は意識しています。開発時は水系と溶剤系という選択肢があるわけですが、VOCや環境への影響を考えると、やっぱり水系を選



星光PMC (株)
樹脂事業部
真継 美佳

びます。実際に当社の製品は水系のものが多いですね。グエン：私はバイオマス材料の活用など、使用する材料の選定について意識しています。星光PMCグループにはセルロースナノファイバーやキチンナノファイバーの技術があるので、それらの活用はもっと進めたいです。

田中：CNFに関してはNEDOの助成をいただき、生産性の大幅な向上に向けて検討を進めているところです。より効率的な製造プロセスとすることで、製造に関わるエネルギーも削減していけると期待しています。

砂田：製造面で言えばKJケミカルズでは、八代工場で2023年に太陽光発電設備が稼働していますし、より効率のいい設備の検討などは常に行っていますね。

日々意識するちょっとした「エコ」

—— 最後にみなさんが普段しているエコな活動があれば教えてください。

砂田：大したことはないのですが、子供の保育園の送り迎えは車ではなく自転車を使っています。自転車は電動ではなく、人力で頑張っています。

蝦名：私はなるべく使える物は長く使うようにしています。今の冷蔵庫や洗濯機は使い始めて10年以上になりますかね。単に壊れていないということもありますが、頻繁に買い替えるのは勿体ないなと思って使い続けています。

田中：私はマイボトルですね。なるべく飲み物はペットボトルではなく、マイボトルを持ち歩くようにしています。

真継：私は着なくなった服を寄付することで、発展途上国の人たちにワクチンを届けてくれるサービスを利用してい



星光PMC (株)
製紙用薬品事業部
グエン カンティエン

ます。捨てるのは勿体ないですからね。あとはポロポロな服は掃除に使っちゃいますね。

グエン：私は毎週電力使用量をチェックして、先週よりも使っているようであれば節電するように気を付けています。出身地のベトナムでは、1時間電気を一斉に消灯して節電する日が年に1回あります。

インタビューコメント

今回は星光PMCグループで製品開発に携わる5名の社員から環境貢献について語っていただきました。対談の中で全員が共通して語っていたことは、環境を意識した開発の重要性でした。環境に配慮した事業活動を行い、環境負荷低減に取り組むことは企業の責務であり、その想いが社員間で共有されていることが再確認できました。

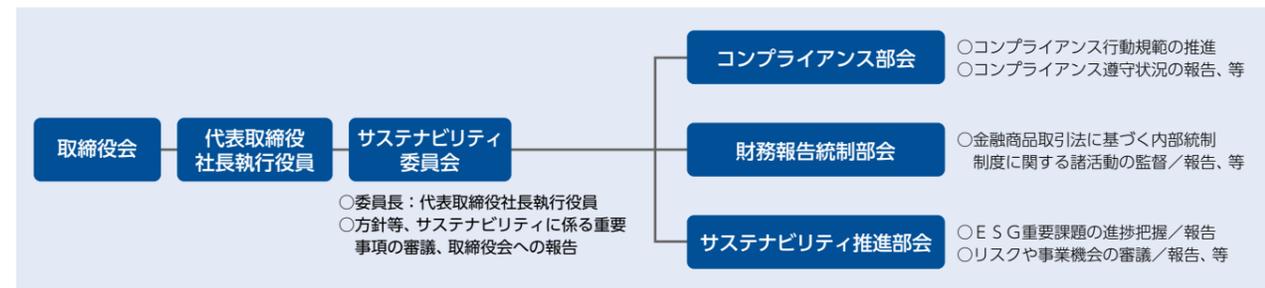
TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言に基づく情報開示

星光PMC(株)は、2022年4月にTCFD提言への賛同を表明しました。気候変動への対応を重要な経営課題と認識し、急速に進行する脱炭素社会への移行をリスクだけでなく機会と捉えることで、中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。



■ ガバナンス

星光PMCグループは、気候変動対応を含む「ESG(環境、社会、ガバナンス)重要課題」を特定し、サステナビリティ委員会で重要事項を審議しています。同委員会は審議結果を取締役会へ報告することで、取締役会の監督が適切に図られる体制としています。また、ESG重要課題の実行機関として、以下の3部会を設置しており、気候変動への対応を含む各種リスクや事業機会の把握、対応策の審議等を行っています。



■ 戦略

星光PMCグループは、P.7-8に記載のある「ESG重要課題」の達成に向けた戦略が、脱炭素社会への移行計画に該当すると考えています。TCFD提言が推奨する、複数の気候シナリオでの分析のため、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第6次評価報告書(AR6)や、国際エネルギー機関(IEA)のWEOなどを参照し、2℃未満シナリオにおける移行リスクや機会、4℃シナリオにおける物理的リスクや機会を分析しました。主要なリスクや機会は以下の通りです。

リスク/機会の項目		対応(策)
移行リスク (2度未満シナリオ)	政策および法規制	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンプライシングの導入による製造コスト増(2023年のGHG排出量[Scope1+2] 24.5千tベースで1.9億円)や原燃料コスト増。 ・低炭素設備への置換等の投資費用増。
	技術	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマス活用等の環境配慮技術開発の遅れに伴う製品競争力の低下。
	市場	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル消費拡大に伴うユーザー市場の縮小。
	評判	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーから気候変動対応が不十分と評価されることによる企業ブランドの低下。
物理的リスク (4度シナリオ)	急性	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の増加・激甚化に伴う工場操業率の低下やサプライチェーンの分断。
	慢性	<ul style="list-style-type: none"> ・森林由来資源や原燃料の供給不安定化/コスト増。
機会	製品とサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・脱プラスチック・紙化ニーズの高まり等に伴う環境戦略製品の需要増。
	市場	<ul style="list-style-type: none"> ・石油由来樹脂からの転換ニーズの高まりに伴うバイオマス由来樹脂市場の拡大。

シナリオ分析の前提

設定シナリオ	2℃未満シナリオ	4℃シナリオ
参照シナリオ	IPCC AR6のSSP1-1.9シナリオ IEA WEO 2021のSDS(2℃未満シナリオ)	IPCC AR6のSSP5-8.5シナリオ
分析対象期間	2030年まで	2030年まで
カーボンプライシング	8,000円/t-CO ₂	-

※IPCC; Intergovernmental Panel on Climate Change (気候変動に関する政府間パネル)
 ※IEA; International Energy Agency
 ※WEO; World Energy Outlook

■ リスク管理

星光PMCグループは、全社内部的統制に関連して全事業部長/本部長、グループ会社の長等に対し、リスク認識調査を実施しています。気候関連リスクの識別と評価は、当社グループのリスクマネジメント体制に統合されており、サステナビリティ推進部会が管理しています。

サステナビリティ推進部会は、調査結果に基づいて当社グループの諸リスクへの対応状況を確認し、重要なリスクについてはサステナビリティ委員会に報告・問題提起しています。さらに、サステナビリティ委員会は、審議結果を取締役会に報告しています。

■ 指標と目標

① 温室効果ガス(GHG) 排出量

世界的に脱炭素社会への移行が加速する中、星光PMCグループは、政府方針(2030年までに2013年比46%削減)よりも踏み込んだ、「2030年までに2013年比GHG排出量50%削減(Scope 1+2)」および「2050年カーボンニュートラル」を新たな目標として掲げました。目標達成に向け、8,000円/t-CO₂の社内炭素価格を設定・運用するとともに、GHG排出量削減計画を策定し、エネルギー基盤強化や太陽光発電設備の導入、グリーンエネルギー購入といった諸施策を通じて、GHG排出量削減に継続的に取り組んでまいります。

なお、2023年度の実績は24.5千t(Scope 1+2、マリンナノファイバー社除く)となり、2013年度対比17%削減(2022年度対比では9%削減)となりました。今後はScope3の把握にも努めてまいります。

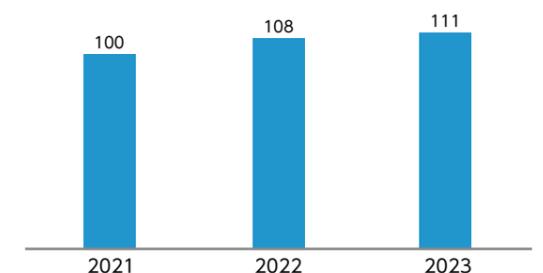
当社グループのGHG 排出量 (Scope 1+2)



② 環境戦略製品売上高

星光PMCグループは旧経営ビジョン「エコテクノロジーで未来を創る」のもと、サーキュラーエコノミーへの取り組みをESG重要課題の一つとして掲げています。持続可能な社会の実現に向けた当社グループの貢献を定量化するため、環境戦略製品を独自に選定するとともに、その2021年度の売上高を100として指数化した「New Green Index」を導入し、2023年度の指標は前年比で3ポイント上昇し、111となっています。当社グループは、気候変動対応を含む様々な環境への取り組みを進めてまいります。

New Green Index の推移



環境保全



星光PMCグループは、地球環境問題を重要な課題と位置付け、持続可能な社会の実現にむけて環境への影響に配慮した取り組みを継続的に推進します。

安全・環境・健康に関する方針

星光PMCグループは、社会の一員として、また化学物質を製造・販売する企業として、安全・環境・健康の確保が経営の基盤であることを認識し、このことを事業活動のすべてに徹底し「持続可能な発展」の原則のもとに、生物多様性を含め地球環境等に調和した技術・製品を提供し、もって社会の発展に貢献する。

- ①製品のライフサイクルにわたり、安全・環境・健康に責任をもって行動する。
- ②安全・環境・健康の目的・目標を定めて、持続的な改善を図る。
- ③安全・環境・健康に係わる法律・規則・協定などを遵守する。関係法律が整備されていない国においては、安全操業優先・地球環境保護の観点に立ち行動する。
- ④安全・環境・健康の教育と訓練を計画的に実施する。
- ⑤安全・環境・健康を確保するために、体制を整備し、内部監査を実施する。

この基本方針は、社内外に公表する。星光PMCグループ各社に対し、この基本方針に対応することを求める。上記に述べた「安全」には、保安防災を含む。

環境保安管理体制図

星光PMC(株)は、下図のように環境保安管理体制を整備し、従業員および事業所の環境保安を確保するとともに、地域社会の環境保全に取り組んでいます。



持続可能な社会の実現に向け、星光PMCグループが目指す目標^(※)

2030年目標：GHG排出量 2013年比 50%削減
2050年目標：カーボンニュートラル

※原単位の分母は生産数量です。GHG排出量はScope1+2（エネルギー起源、非エネルギー起源）の数値です。

Scope1：事業所自らによるGHGの直接排出（燃料の燃焼、工場プロセス）
Scope2：他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出

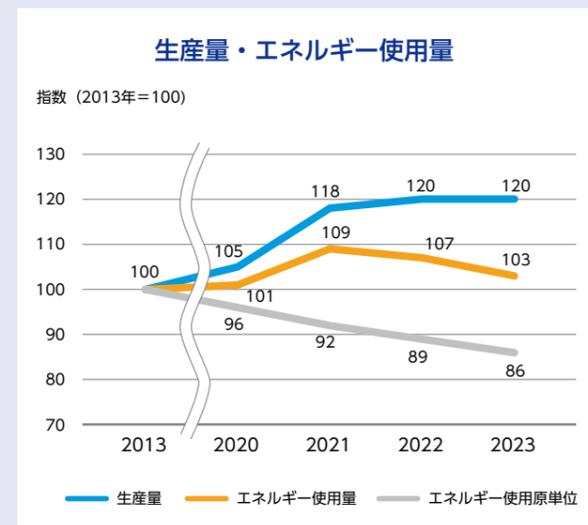
GHG排出量削減計画

1. エネルギー基盤強化
 - ・工場設備改造、運用見直し
 - ・製造（反応）工程の抜本的な省エネ化
 - ・省エネ活動
(原油換算エネルギー使用量 対前年1%削減)
2. 太陽光発電設備 導入
3. 燃料転換（重油・軽油→ガス化）
4. クリーンエネルギー購入

星光PMCグループ 2023年度 生産量・GHG排出量・エネルギー使用量

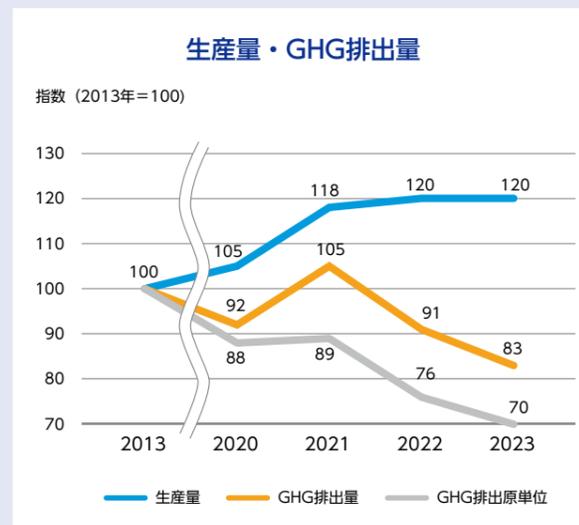
生産量・エネルギー使用量 グループ合計

2023年度は2013年度比で、生産量が19.6%増、エネルギー使用量も3.1%増となっています。対前年では、生産量はほぼ横ばい、それに対しエネルギー使用量は3.6ポイント減少しました。



生産量・GHG排出量 グループ合計

2023年度は2013年度比、生産量が19.6%増となりましたが、GHG排出量は16.5%減となっています。対前年では、生産量はほぼ横ばい、それに対しGHG排出量は8.6ポイント減少しました。



サーキュラーエコノミーへの取り組み

星光PMCグループでは、産業廃棄物の発生抑制・再利用・再活用（3R）を推進し、産業廃棄物の最終埋立処分量の削減に取り組んでいます。産業廃棄物の処理委託先は、リサイクルに努めている産廃処理業者を積極的に選定していきます。また、コンプライアンスの徹底を基本に産業廃棄物の適正な処理が確実にされるか、各工場担当者による委託先事業者の現地確認にも注力しています。



KJケミカルズ(株)太陽光発電設備を導入

パリ協定以降GHG削減は全世界で取り組みが進められています。日本でも2050年カーボンニュートラルに向け、2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減することを目標としており、KJケミカルズ(株)（以下KJC）を含む星光PMCグループとしては50%削減を設定しました。取り組みの一つである再生エネルギーの導入において、KJC八代工場では敷地内に、太陽光発電設備（容量282kw）を設置、2023年10月1日より稼働開始しました。これにより、年間約120tのCO₂削減が見込めることになりました。

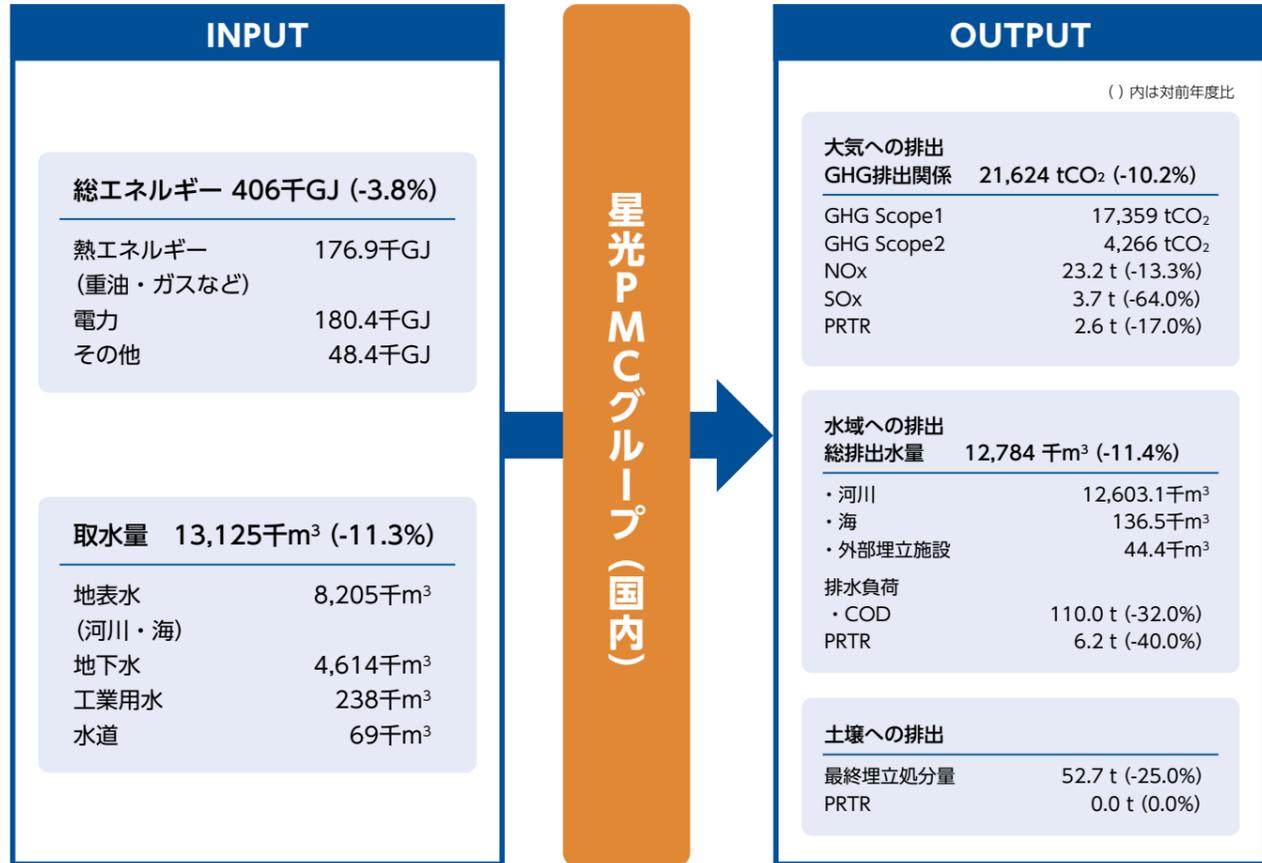


八代工場敷地内に設置した太陽光発電設備

■ 事業活動に伴う環境負荷

星光PMCグループでは、事業活動に伴う資源の投入量（INPUT）、環境への排出量（OUTPUT）を定量的に把握することで、総合的・効率的な環境負荷削減の取り組みに活用しています。

下のデータは、当社グループ（国内）の2023年度の環境負荷の全体像です。INPUTとしてエネルギー使用量と取水量の2項目を、OUTPUTとしてPRTR*1対象物質（515物質）の環境排出量、GHG排出量、NOx排出量、SOx排出量、排水中のCOD排出量、産業廃棄物外部最終埋立処分量の6項目をそれぞれ総量で表示しています。



*1 PRTR：Pollutant Release and Transfer Register の略。環境汚染物質排出・移動登録。化学物質が、どのような発生源からどれほど環境中に排出されたか、または 廃棄物として事業所外に運び出されたかを把握・集計・公表する仕組み。

■ オゾン層対策

特定フロン中のHCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン）の最大の問題点は、オゾン層を破壊する塩素を有しており、成層圏まで上昇すると紫外線によって分解された塩素原子が放出され、オゾン層と地球温暖化に悪影響を与える点です。また、代替フロン中のHFC（ハイドロフルオロカーボン）はオゾン層破壊物質ではないとはいえ、CO₂の100~10,000倍以上の温室効果があります。星光PMCグループは、HCFCやHFCの漏洩量の把握と漏洩防止策を行っています。

*本項目の数値は星光PMCグループ（国内）の合計です。



品質

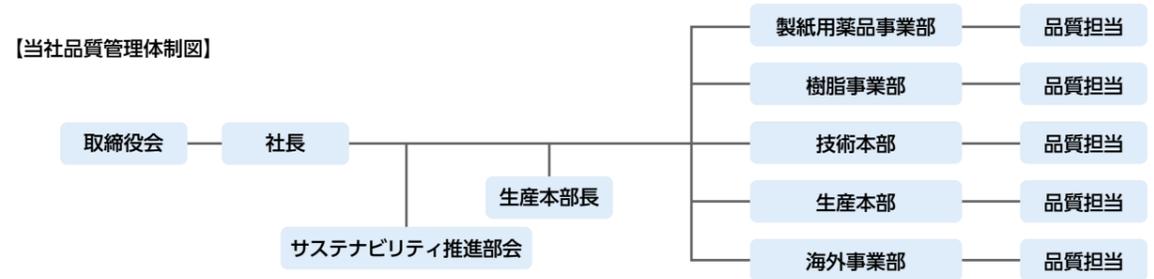
■ 星光PMCグループの品質方針

「私たちは、お客様や市場に信頼、満足していただけるよう、安定した品質の製品・サービスを提供すると同時に、品質の継続的な向上・改善に努めてまいります。」

「星光PMCグループでは、上記方針のもと、一部事業所にてISO9001を取得し、他事業所においてもISO9001に基づいた品質体制を構築・運用しています。また、星光PMC本体による定期的な監査も実施しています。」

■ 星光PMC(株)の品質体制

当社は、品質管理規程を全社的な規程に制定し、運用しています。当社の品質体制の概要は以下のとおりとなっています。



■ 主な取り組みの目標と実績

年度	生産本部分針	活動実績
2023	品質管理活動（工程異常、仕掛品、在庫の定期確認）を継続し、システムを導入して転記作業、属人的作業を無くすなど、より一層の品質管理のレベルアップを図る。	品質管理活動の枠組みを元にデジタル管理システムを始め、品質担当者を中心にQMSの共通ツールとして作業の一元化を進めました。

■ 品質マネジメントシステムの展開 - KJケミカルズ(株) -

【KJケミカルズ(株)工場長コメント】

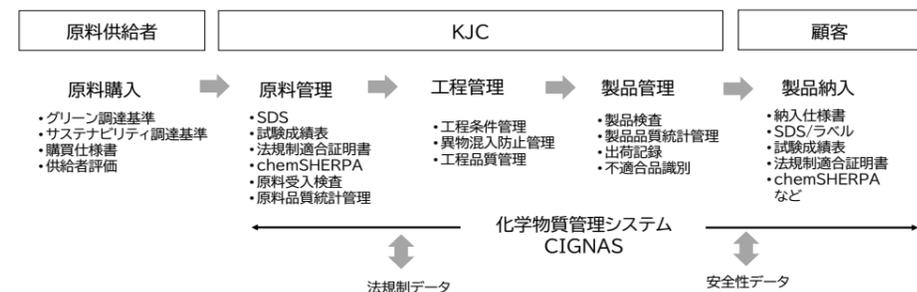
KJケミカルズ(株)（以下KJC）八代工場は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001認証を取得しています。ISO9001に準拠した品質保証システムを運用することにより、品質保証活動を展開しています。



KJケミカルズ株式会社
八代工場長
中島 康博

品質方針

- 顧客の満足と信頼を得るため、製品の安全、且つ安定生産を図ると共に、品質改善に継続的に取り組む。
- 事業活動に関連する国内外全ての法令及び規制を遵守する。
- 品質保証活動を確実なものにするために、教育や監査活動等を通じて常に全従業員のレベルアップを図る。
- 経営方針に基づいた品質目標を設定し、目標達成に全従業員で取り組む。



安全衛生

安全操業は、星光PMCグループの持続可能な成長を支える事業の根幹です。P.23に記載のある安全・環境・健康に関する方針の実現に向けて、従業員一人ひとりが「安全第一」を共通認識として、労働安全衛生・保安防災活動に取り組んでいます。

安全に関する取り組み

星光PMCグループの生産領域は多岐にわたり、化学反応を伴う工程以外にも、危険物・有害物の取り扱いや重量機器・回転機器を取り扱う工程などがあります。ひとたび重大事故を起こせば近隣住民の方々をはじめ社会に多大な影響を及ぼしたり、協力会社を含む従業員に健康被害をもたらす可能性があります。こうした事態をおこさないように、危険予知活動、ヒヤリハット報告、リスクアセスメントに基づいたリスク低減活動、安全基本動作の徹底、化学物質に対する教育などを実施し、日々安全第一を意識した取り組みを実施しています。また、啓蒙活動として、毎日安全メッセージを配信することや、安全ニュースでの情報共有を実施しています。



<各種研修>



<安全基本動作>



<化学物質に関する教育>



労働災害発生状況



2023年度 TRIR目標（2.1以下）は達成となりましたが、不休業災害が1件発生しました。災害データベースによって原因を分析・追求し、工学的な対策による作業改善と、リスクアセスメント実施体制の強化によって、ゼロ災害に向けた取り組みをおこなっていきます。

※TRIRとは、労働災害の発生状況を評価する指標（100万延べ実労働時間当たりの労働災害の頻度）

安全衛生教育

星光PMCグループでは、Know-Howおよび、Know-Why教育を進めており災害事例を活用した安全教育、設備を使用した安全体感教育、災害イラスト動画の視聴によって「自ら考え、自分と仲間を守る」自律的な安全活動に取り組んでいます。また、日化協のケミカルリスクフォーラムやeラーニングなど、外部研修にも積極的に参加しています。

<SDS教育>



<安全体感教育>



安全環境監査

星光PMCグループではレスポンシブル・ケア活動が正しく機能していることを評価するため、国内10事業所、海外3事業所で安全環境監査を毎年実施しています。

監査は、A診断（システム監査）、B診断（現場監査）の2部構成で、安全衛生、保安防災、環境保全、物流安全、化学品安全などの労働安全衛生マネジメントシステムの運用を確認しています。



▲ 職場巡視の様子

【レスポンシブル・ケア活動とは】

レスポンシブル・ケア活動とは、化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表する自主活動を指します。

当社では、①労働安全衛生 ②保安防災 ③環境保全 ④物流安全 ⑤化学品・製品安全 の5つの項目で活動を行っています。

BCP・保安防災

各事業所では、BCP（事業継続計画）の観点から、様々な防災・緊急対応訓練を計画的に実施し、いかなる時に災害が発生しても被害を最小限にとどめ、速やかな復旧により事業が継続できる体制の整備に努めています。

<消火訓練>



<AED研修>



<槽内救助訓練>



<消防技術競技大会>
当社女性社員が表彰を受けました。



改善力向上の取り組み

星光PMC(株)では、QC手法の習得と活用を目的とした改善力アップ研修を実施しています。本研修には、約1年間の自職場改善活動も盛り込まれており、自主的な改善活動を行っています。その他、「社員一人ひとりの改善こそが現場力の強化に繋がる」をコンセプトとした、改善提案発表会も開催しました。2023年度は、社会的に求められているGHG削減や生産効率向上、省エネルギー、産業廃棄物の削減など地球環境保護をテーマにした発表がありました。

<改善提案発表会>





人財育成

■ 長期的視点に基づいた経営基盤強化を実現する人財育成

星光PMCグループは、「自ら考え、挑戦する人財の育成」を目標とし、人財育成を行っています。以下データにある通り当社では、平均勤続年数が高く、長く働く人財が多い傾向にあります。そのため、中長期のキャリアの中で各段

階にあわせた研修を実施しているほか、グローバル人財育成やダイバーシティ推進等、テーマ別の教育研修を行うことで経営基盤強化に繋がる人財育成を行っています。

基本データ（グループ）

		2021年度	2022年度	2023年度
従業員数	男性	601人	610人	614人
	女性	124人	130人	145人
	全体	725人	740人	759人
平均年齢	男性	42.2歳	42.9歳	43.0歳
	女性	38.2歳	38.3歳	39.0歳
	全体	41.5歳	42.1歳	42.3歳
平均勤続年数	男性	17.0年	17.3年	17.7年
	女性	10.4年	10.2年	10.4年
	全体	15.7年	16.1年	16.3年

採用・退職データ（単体）

		2021年度	2022年度	2023年度
新卒採用者	男性	9人	6人	4人
	女性	6人	3人	2人
	全体	15人	9人	6人
新卒採用者 3年後の定着率	男性	83.3%	62.5%	75.0%
	女性	100.0%	100.0%	75.0%
	全体	90.0%	76.9%	75.0%
中途採用者	男性	3人	2人	3人
	女性	0人	0人	3人
	比率	16.7%	18.2%	50.0%
退職者人数 (自己都合)	男性	1人	8人	10人
	女性	0人	2人	1人
	全体	1人	10人	11人
自己都合 退職による 離職率	男性	0.2%	1.9%	2.5%
	女性	0.0%	2.8%	1.4%
	全体	0.2%	2.1%	2.3%

■ 各種教育・研修制度

星光PMC(株)では、内定段階から管理職に至るまで、各種教育・研修の制度を設けています。昇格のタイミングで各階層に必要なスキルを学ぶ昇格者研修では、若手社員は課題設定と周囲の巻き込みについて学ぶ研修、管理職一歩手前の層では業務マネジメント力やファシリテーション力の強化に繋がる研修、管理職層にはマネジメント力向上に繋がる研修を行っています。

また、グローバル人財育成のため、自由応募の英語集中研修や海外赴任者向け語学研修も行っています。



社内研修風景

主な教育・研修制度

対象者	主な研修制度	概要
内定者	内定者研修	社会人としての基本、当社風土理解
新入社員	新入社員研修	当社制度理解、工場見学、安全体感教育、セルフケアなど
昇格者	昇格時研修	行動変革、マネジメント
海外赴任者	海外赴任前	語学教育、赴任地文化理解、安全確保
全従業員	コンプライアンス研修、ハラスメント研修	コンプライアンス、ハラスメント教育
会社選抜	中間監督者研修、英会話研修、英文ライティング研修	メーカーとしての監督者研修、語学スキルを必要とする社員へのスキル取得機会提供
自由応募	英語集中研修	英語メンタルブロックの解消、継続的学習習慣を目的とした学習機会提供

■ 自己啓発支援

星光PMC(株)では前述の各種教育・研修制度に加え、従業員個人が主体的に能力開発・向上を目指すことおよびリスキリングを支援するため、各種スキル（語学、法律、品質管理、専門技術など）を中心とした「通信教育制度」を設けています。さらに業務に有用な資格を取得した場合の奨励金やその資格取得に要した費用を補助するための「資格取得奨励金制度」を設けています。



資格取得奨励金制度の対象（一部）

■ 専門性を高める仕組み・教育

星光PMC(株)の研究所では、基本的にOJTで人財育成を行っています。相互に学びあうための勉強会や知的財産部が中心となって作成したeラーニングなどで学びを深めています。

また、日ごろの研究成果を社内に発信する研究発表会は研究所以外にも工場や本社、営業所からも参加者が訪れ、それぞれの視点から、研究成果について議論が交わされています。他にも星光PMCグループの研究発表会であるSP EXPO、未来創造会議といった催しも行われており、研究成果やノウハウが共有されています。

星光PMC(株)の生産本部では、安全衛生の項目（P.27-28）に記載があるように、安全や改善活動、製造に関する教育を行っています。また、若手社員向けには労働災害防止とプレゼンスキル向上を目的とした若年層研修を行っているほか、上級・班長・現場長には、リスクアセスメント、指導教育の進め方、静電気対策等現場で起こりやすい事象と対策についてなどのオリジナルの内容での研修を行っています。

そのほか、他事業所研修という取り組みでは、他事業所の仕事を半年間経験できる機会があり、研究所-工場間でも人財交流が行われています。

■ 若手社員が中心となるプロジェクト



星光PMCグループでは若手社員が中心となる各種プロジェクトも盛んに行われています。2023年度は新規事業の提案プロジェクトである「ワイガヤ」が初めて行われ、ゼロから社員が考えた新規事業アイデアを役員にプレゼンしました。（P.33-34参照）

また、2024年前半には、グループ会社を超えて新しいミッション・ビジョン・バリューを策定するプロジェクトも行われました。（P.5-6参照）

プロジェクトワークを通じて社内外の人と交流し、成長する機会を今後も継続的に提供していきます。

VOICE 英語集中研修を通じた総合的英語力の向上

英語集中研修では、発音指導や構文理解、スピーチやディベートなどの実践的な演習を通して、総合的な英語力向上を目指しました。特に講師の方からの丁寧な指導と、アウトプット重視の講習内容により、発音や構文への理解が深まりました。後半の研修では英会話に重きを置いたことで、実践的なコミュニケーション能力の向上を実感できました。この研修を通して、研修後も継続して発声練習をしたり英文記事を積極的に読むようにしたりと、英語を勉強する習慣が身につく、英語力向上への強い意欲を持つことができました。



情報システム部
本間 雄也

働き方改革への取り組み

■ 年次有給休暇・育児休暇の取得率向上、時間外労働の削減

星光PMC(株)では、次世代社員や女性社員をはじめとする全社員がその能力を最大限に発揮し続けることができるよう、ワークライフバランスの向上を目的として、働きやすい雇用環境の整備に取り組んでいます。一般事業主行動計画には、次の目標を定めています。

1. 年次有給休暇の取得状況を現状よりも改善し、取得率を70%以上とする。
2. 男性の育児休暇取得率を30%以上とする。
3. 多様な労働条件を整備し、活用を促進する。

■ 仕事と家庭の両立支援

星光PMC(株)では、仕事と家庭の両立支援制度を設け、制度活用を啓蒙した結果、女性社員の育児休業の取得率は100%となっています。男性社員の育児休業取得率も72.7%と増加してきており、通常の育児休業取得に加え、

仕事と家庭の両立支援制度

法定を超える育児休業制度

子供が2歳6か月になるまで育児休業取得可能

パートナー向け育児休暇制度

子育てパートナー休暇制度
産後パパ育児制度

柔軟な勤務制度

介護・育児者向けの
時短・時差勤務、残業免除
テレワーク制度
フレックスタイム制度

配偶者同行休業

海外で勤務する配偶者に
同行可能
(1年～3年)

■ 働きやすさを支える各種手当



社員およびその家族が安心して暮らすことができる環境作りのため、住宅関連、家族関連の手当を充実させています。

- ・各種住宅関連手当：住宅手当を支給するほか、会社事情での異動の際には借り上げ住宅の利用が可能です。また、住宅を購入された方にも、一定期間、手当を支給しています。
- ・家族手当：子供の数にあわせて家族手当が支払われます。
- ・海外別居手当：家族を日本に残して海外赴任をする場合、海外別居手当が支払われます。

VOICE テレワーク勤務で時間の有効活用

私は通勤に片道1時間程度かかっています。その為、普段は朝一番に保育園に子供を預けて出社、帰りは残業をせずに終業後すぐに退社してお迎えに行きます。

しかし最近では、2023年に正式に制度化されたテレワーク勤務のおかげで、この通勤時間をいろいろな事に活用できています。始業前に家の掃除をしたり、夕飯の仕込みを済ませてしまったり、終業後は普段より早くお迎えに行けることで病院の営業時間に間に合うので子供の通院をしたり、と時間の有効活用ができ大変助かっています。通院など特殊な用事が無くても、早くお迎えに行くだけで子供が満面の笑みで喜んでくれるので、それだけでも生活の質の向上が実感できます。



製紙用薬品事業部
技術統括部
山口 翔子

年次有給休暇取得率の推移

	2021年度	2022年度	2023年度
年次有給休暇取得率	57.1%	65.8%	70.8%

年次有給休暇の取得率については、2023年度は70.8%となり、目標値(70%)を上回りました。

年次有給休暇の取得状況を会社全体として把握し、社員へ計画的な取得を促すとともに、フレックスタイムや時差勤務等、様々な勤務制度の効率的な活用等も含め、男女ともに働きやすい環境の整備を継続していきます。

子育てパートナー休暇および出生時育児休業(産後パパ育児)制度も活用されています。今後更なる男性社員の育児休業取得率の向上に取り組んでいきます。

ダイバーシティの推進

多様な人材がそれぞれの個性を活かしながら活躍することで社内が明るく活気に溢れていることは、持続的な成長を実現するために重要な要素です。当社グループではその考えのもと、失敗を恐れず自ら主体的にチャレンジする企業風土を醸成する一環として、グローバル人材の活用および女性社員の活躍推進に取り組んでいます。

■ 女性社員の活躍推進

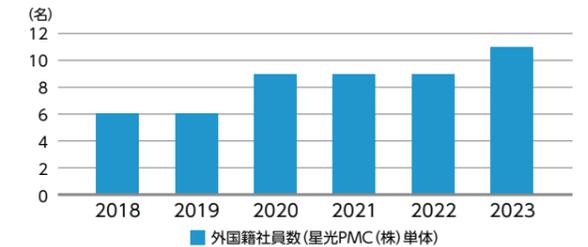
星光PMC(株)では、持続的な成長を実現するためには女性の活躍が不可欠であると考え、女性活躍推進に取り組んでいます。一般事業主行動計画に従い、女性の活躍推進に関しては、女性の職域拡大や働きやすい環境作りに取り組んでいるほか、研修等の各種施策の実施検討を行っています。



2023年に女性労働者に対する活躍推進の取り組みが優良であると認められ「えるぼし認定」1つ星を獲得

■ グローバル人材の活躍推進

星光PMC(株)では、語学力・専門能力・高い向上心を有している日本の大学院を卒業した外国人留学生や海外で活躍する人材を中心に、グローバル人材を新卒・中途を問わず積極的に採用しています。今後は、異なる言語や文化的背景を持った人も働きやすい環境作りに繋がる研修などを検討中です。



社会貢献

■ SDGs パートナー登録制度の活用

星光PMCグループの地方創生SDGsへの取り組みを推進していくために、事業所の属する各自治体と連携していくべく、パートナー登録制度への加入と、登録地域に貢献する各種取り組みを行っています。登録拠点は右記のとおりです。

- ・ちばSDGsパートナー登録制度 (星光PMC(株) 千葉工場・千葉研究所・市原研究所)
- ・倉敷市・高梁川流域 SDGs パートナー制度 (星光PMC(株) 水島工場)
- ・あかしSDGsパートナーズ登録制度 (星光PMC(株) 明石事業所)
- ・熊本県SDGs登録制度 (KJケミカルズ(株) 八代工場)

■ 各種ボランティア活動(海岸清掃/小学校出前授業)

星光PMCグループは、事業所所在地の地域と共存・共生を図るため、様々な活動に参加しています。

星光PMC(株)明石研究所では、ビーチクリーンinあかしSDGsウィークに参加し、近隣の海岸の清掃を行いました。その他拠点でも、周辺地域のごみ拾い活動に参加するなど、地域環境に貢献する活動を行っています。(詳細:P.37-43サイトレポート)



星光PMC(株)明石研究所では、明石市立林小学校の児童90人を対象に「化学を通じてSDGsを学ぶ」児童向け講座を行いました。SDGsに絡めて、古紙再生の仕組みや脱プラスチックに向けた社会の動きを紹介し、脱プラスチック関連の実験なども行いながら、持続可能な社会づくりについて理解を深めていただきました。





プロジェクトへの挑戦で得られた、 人との繋がりや将来性への期待

— プロジェクトへの参加理由を教えてください。

小林：これまで研究職として開発業務に携わってきましたが、既に存在する技術や製品の改良はあっても、まったく新しいものを立ち上げる経験はありませんでした。しかし、自分のなかではゼロからイチを立ち上げる挑戦をしたいという思いがあったため、今回のワイガヤプロジェクトに参加することを決めました。

斎藤：普段から新規事業のテーマ探索に興味を持っていました。事業部の研究開発業務を行いながらでしたが、新規事業開発の仕事に携われて良かったです。また、ワイガヤプロジェクトメンバーと議論した内容を、私が関わっている事業部の研究開発のテーマに逆輸入的に展開することもできました。

小川：今は入社して2年目ですが、プロジェクトに参加した当初は入社間もなくプロジェクトへ参加することへの不安がありました。上司や先輩方からの後押しもあり参加を決めました。工場勤務ですと他部署の方々と交流する機会が少ないのですが、プロジェクトに参加したことで、通常業務ではなかなか知ることができない他部署の業務内容を知ることができ、大変貴重な経験となりました。



ピラワン：入社時はコロナ禍の影響もあり、なかなか他事業所の方と交流を持つ機会がありませんでした。しかし、プロジェクトに参加したことで、他事業所の方と意見を交わしたり、自分の考えも積極的に発信することができ、非常に楽しい経験となりました。

佐藤：ワイガヤプロジェクトの話が来た時は、新しいことにも取り組みたいと考えていましたが、子どもがまだ小さく、通常業務との両立ができるか不安でした。しかし事務局から気にせずトライするよう勧められプロジェクトへの参加を決めました。プロジェクトでは他部署の人との繋がりを持つことができました。優秀な若手社員がいることがわかったことで会社の将来性を実感でき、参加してよかったと思っています。



マーケティングやプレゼンに苦労

— 苦労した経験についても教えてください。

佐藤：研究では試行錯誤が可能ですが、このプロジェクトでは自分たちのアイデアを具体的な形にすることに苦労しました。特に既存市場への付加価値を提案する難しさを感じました。

斎藤：私も研究業務とは異なる市場ニーズの把握や、将来を見据えた事業構想など、ビジネスの仮説検証方法が分からず、マーケティングの難しさを感じました。

ピラワン：私たちのテーマをビジネスとしてどう発展させるか、そして資金面で上層部をどう説得するかなど、実践的な課題に直面しました。

小林：長期的なテーマには多大な資金投資が必要となるため、役員を説得するためのプレゼン準備にも苦労しました。

小川：私の場合は、入社間もない時期だったため、会社の強みや技術を十分に理解できていない状況で、アイデアを出すことに苦労しました。それでも、チームに貢献するために精一杯考え、アイデアを出し続けました。

時間軸や実現可能性を意識したテーマ選定

— 各テーマにはどんな風に取り組んでいったのですか？

佐藤：テーマであった「10年後の新規事業」といった時間軸を考え、例えば食料や医薬品といった認可が下りるのに時間が掛かるテーマより、その期間内で徐々に売れていくようなテーマを進めていくべきではないかといったことから検討しました。

小林：テーマに対する議論の中で技術の進歩スピードについての気づきがありました。10年前を振り返ると、スマートフォンが普及し始めた頃、そのさらに10年前の20年前は“写メール”が主流だったことから、技術の進歩スピードが想像以上に速いことに気づきました。当初は難しいと思われたテーマでも、この急速な技術進化を踏まえれば、実現可能になるのではないかと考え、テーマについての議論を重ねました。

ピラワン：私たちのチームには研究所員やマリンナノファイバー社の方々が参加していて実験も可能だったことから、テーマの実現可能性を色々な角度から検討しながら絞り込んでいきました。テーマを決定した後も、チーム全体でアイデアを出し合い、実験を実施したり特許調査を行ったりと、積極的に取り組みを進めていきました。

社外の方との交流で得られたもの

— 今回、外部との交流も行いながら進めたと聞きました。

小林：アカデミック寄りのテーマを扱っていたため、企業と関わりのある大学教授に助言を仰ぎました。スポットコンサルを利用した時には、企業関係者だからこそ、マーケティングの観点が必要な今回のプロジェクトに即した納得のいく説明を得ることができました。

斎藤、小川：私たちのチームにとっても、この制度はとても役に立ちました。2つのテーマが残る中、それぞれのテーマに関わる講師から話を伺いました。これらの情報を参考に、チームの仮説を検証することができました。振り返るとインタビュー方法については、改善の余地があったと反省していますが、チーム内の知見だけでは視野が狭くなりがちだったので、こうした外部の知見を取り入れる機会はとてもチームの助けとなりました。



佐藤：以前食品メーカーで勤務していた研究職の方にスーパーの裏側について教えてもらいました。その中で、数字だけでなく熱意が重視されることを学びました。このお話から新規業界への参入には、失敗を恐れず何度も挑戦し続ける姿勢が不可欠だと学ぶことができました。

プロジェクトを終えて感じたことと、 次回への意欲

— プロジェクトを終えての感想を教えてください。

斎藤：プロジェクトが終わった現在では提案したテーマが実験で手を動かせる内容もあったため、当社の設備を活用して検討を継続しています。次回プロジェクトがどういった形になるかは分かりませんが、参画したいと考えています。小林：実験が難しいテーマだったため、プロジェクト終了後の具体的な動きはありませんが、関連するニュースなどはチームメンバーで共有し続けています。業務量次第ではありますが、2年に1度程度のペースであれば、今後も参画したいです。

小川：現在はテーマに関する活動を行っていませんが、来年以降もワイガヤプロジェクトがあるならば、ぜひ参加したいです。今回の経験から、現在はアイデアを膨らませるためにも化学以外の他分野の本を読むことで知識を拡げています。



佐藤：実験など具体的な作業は行えていませんが、テーマ関連の情報共有や連絡は続けています。また、発表したテーマに興味を持った方から質問が寄せられるなど、一定の反響がありました。次回プロジェクトへの参加については、今回の成果を土台に、自由な研究ができるのであれば、参画したいと考えています。

ピラワン：私たちのチームのテーマが採用されたことから、引き続き検討を継続したいと考えています。次回プロジェクトが実施される際も、今回採用されたテーマについて検討を重ねていきたいです。個人的には非常に有意義なプロジェクトでしたので、今後も同様の機会があると嬉しいです。

インタビューコメント

今回の座談会を通して、ワイガヤプロジェクトへの様々な思いや経験が語られました。参加者一人ひとりが、プロジェクトの意義や課題を実感しながら、熱心に取り組んできた様子がうかがえます。このように、ワイガヤプロジェクトは、社員一人ひとりの新しいチャレンジを後押しし、会社の未来を切り拓く原動力となっていると言えるでしょう。今後もより多くの社員が新たな価値創造に挑戦できることを期待したいです。



コーポレートガバナンス

■ コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

星光PMCグループは、「遵法の精神」と「フェアな事業活動」を経営の基本に据えて、経営陣が高い企業倫理を保持しつつ経営の健全性と透明性を確保し、監査役を中心とした経営監視機構を十分に機能させ、企業価値を高めていくことがコーポレートガバナンスの基本と考えています。

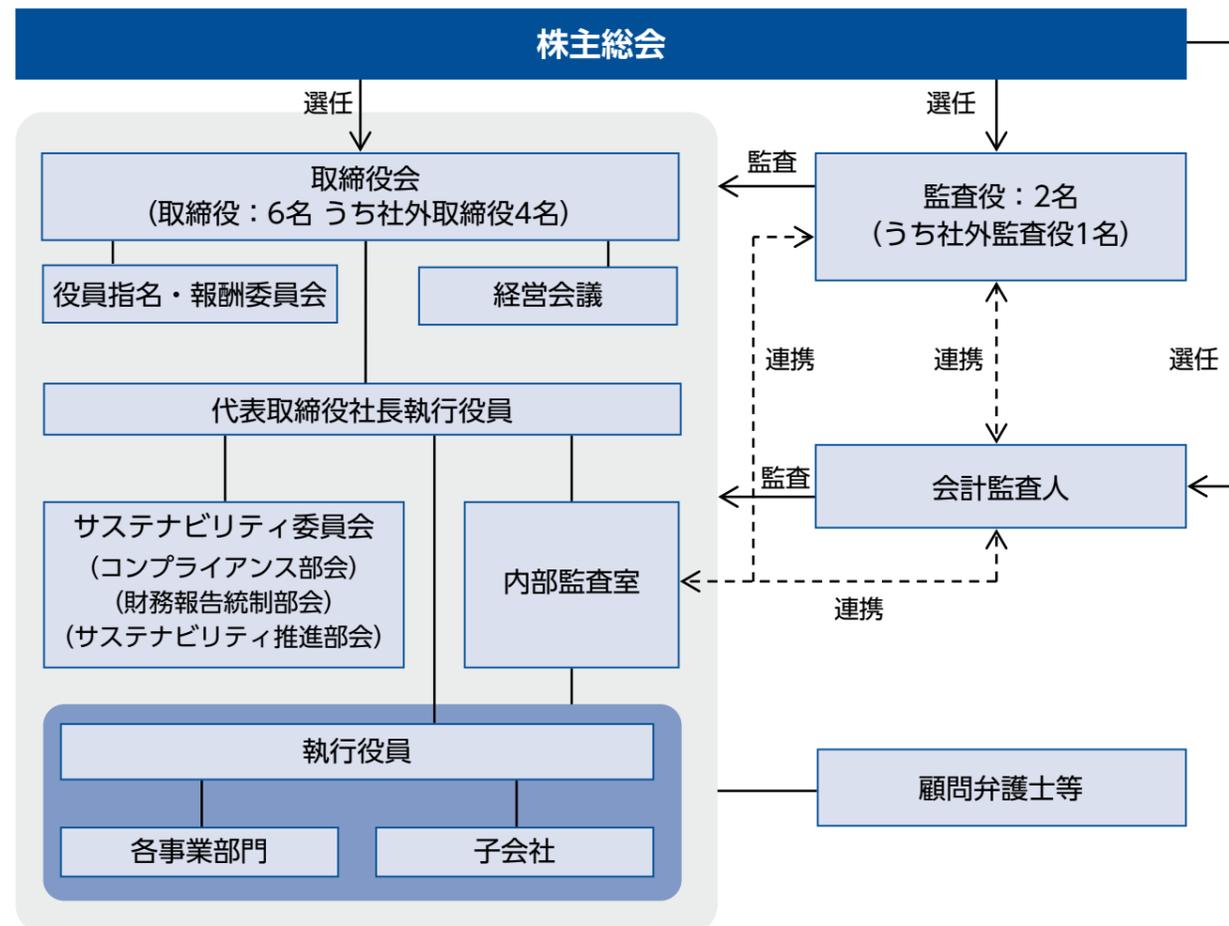
■ コーポレートガバナンスに関する方針

当社グループは、上記の基本的な考え方に基づき「星光PMCコーポレートガバナンス基本方針」を制定しています。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

1. 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
2. 株主をはじめとして様々なステークホルダーの利益を考慮し、適切な協働に努める。
3. 会社情報を適時・適切に開示し、透明性を確保する。
4. 取締役及び監査役は、株主からの受託責任を認識し、求められる役割・責務を果たす。
5. 株主との建設的な対話を行う。

コーポレートガバナンス体制図 (2024年3月31日現在)



コンプライアンス

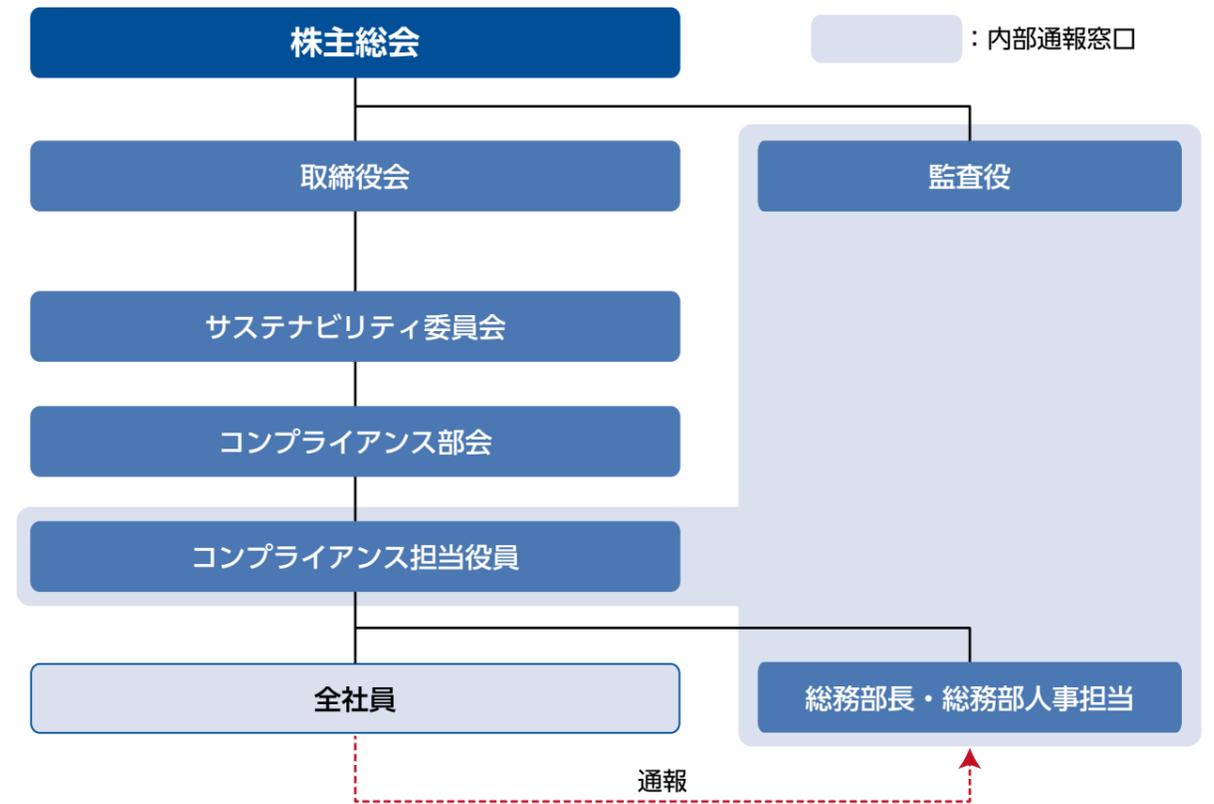
■ コンプライアンス行動規範

星光PMCグループは、「コンプライアンス行動規範」において、グループの全ての社員が日常の業務を遂行するにあたって遵守すべき行動規範を7項目に分けて定めており、全てのグループ社員に説明会を実施し、新入社員には入社時に研修を行っています。

本規範に従った良識と責任ある行動が、星光PMCグループの持続的な成長を支える基礎であることをグループに属する役職員一人一人が認識し、「高い志」を掲げ、公明正大に行動します。

■ コンプライアンス体制

コンプライアンス体制図



■ コンプライアンス推進の取り組み

コンプライアンス意識の向上を目的とした研修を社員の入社時、昇格時あるいはその他研修時に一定の時間を設けて実施しています。また、2024年度にもコンプライアンス行動規範の改定を行い、時代に即した内容に刷新しました。今後も適宜内容の見直しを図ります。

■ 内部通報制度

業務上の情報伝達経路とは独立した複数のルートからなるコンプライアンスに関する通報窓口を設け、コンプライアンス上の問題やその疑義が生じた場合の通報や相談に、速やかに対応できる体制を整備しています。

サイトレポート

竜ヶ崎工場



所在地	茨城県龍ヶ崎市向陽台 5-3-1 つくばの里工業団地	操業開始	1988年
主要生産 品目	乾燥紙力剤、表面紙力剤 撥水剤、CNF複合材料	敷地面積	8,999㎡
		ISO取得	14001

地域活動

- ・ 龍ヶ崎市内清掃活動に参加し、工業団地内の清掃を実施しています。(3回/年)
- ・ 美化活動として緑地の樹木剪定、関連施設の整備、清掃活動に取り組んでいます。(1回/週)

環境活動

- ・ 反応設備更新、改善による生産効率向上に努めています。
- ・ ボイラーの更新を実施し、ガス使用量削減に取り組みました。
- ・ 生産工程を見直し電力使用量削減に取り組みました。
- ・ LED灯含む省エネルギー化関連機器への更新計画を実施しました。
- ・ つくばの里工業団地を通じ、「竜ヶ崎 里山の会」の活動支援を行っています。

安全・防災活動

- ・ 安全衛生協議会を開催しています。(1回/月)
- ・ 防災訓練を実施しています。(避難・消火・漏洩)
- ・ 労働災害撲滅の為、単位作業のリスクアセスメントを実施しています。
- ・ 工事時の作業についてリスクアセスメントを実施し安全対策を行っています。

地域活動



防災訓練 (漏洩)



排水協定値

	基準値	測定値
pH	5.0~9.0	7.0~8.1
BOD (mg/L)	<600	110 (最大値)
SS (mg/L)	<600	540 (最大値)
n-He (mg/L)	≤5	4 (最大値)

千葉工場



所在地	千葉県市原市八幡海岸通 12 DIC株式会社千葉工場内	操業開始	1969年
主要生産 品目	乾燥紙力剤、湿潤紙力剤 表面紙力剤、クレープ剤 サイズ剤、印刷適性向上剤 インクジェット耐水化剤	敷地面積	13,500㎡
		ISO取得	14001

環境活動

- ・ 高効率ポンプの導入を計画し、主要機器の省エネタイプへの更新を推進しています。
- ・ 工場内のLED化を推進し、省エネに努めています。
- ・ 電力や蒸気使用量を下げる活動を通して、GHG削減に取り組んでいます。
- ・ 廃フロン等のリサイクル化を推進し、産業廃棄物の削減に寄与しています。
- ・ 新たな法規制に適宜対応し、法遵守を継続していきます。
- ・ 資格試験の啓蒙を行い、必要資格の拡充を図っています。

安全・防災活動

- ・ DIC株式会社千葉工場の安全活動に参加しています。
- ・ 星光PMC千葉工場独自の安全体験教育を実施し、安全意識の高揚に努めています。
- ・ 釜内救助訓練、消防訓練 (3人操法大会)、津波対応訓練等を実施しています。
- ・ 非常用発電設備の設置後緊急対応訓練を行い、対応力の強化、資料等の有効性の確認を行いました。
- ・ タンク、配管等をきめ細かくチェックし、漏洩防止強化の取り組みを継続しています。
- ・ 安全衛生委員会を開催しています。(1回/月)
- ・ SOP、リスクアセスメントの作成と見直しを行っています。

その他の活動

- ・ 現場作業Know-Why教育を展開し、若年社員の不安解消と災害防止に努めています。
- ・ グループ活動を通して作業の効率化や合理化に取り組んでいます。

安全体験教育



消防訓練 (3人操法大会)



反応槽救助訓練



岩井工場



所在地	茨城県坂東市幸神平 28	操業開始	1998年
主要生産 品目	オフセットインキ用樹脂 水性インキ用樹脂	敷地面積	30,000㎡
		ISO取得	14001

地域活動

- ・ 美化活動の一環として工場外周の清掃を実施しています。(2回/月)

環境活動

- ・ 省エネ活動として、電力・重油・産廃・不良品撲滅の4班体制で改善に努めています。
- ・ 省エネタイプの変圧器やLED照明等の機器導入および、エアコンプレッサー設定圧力変更、冷却水ポンプのインバーター化等による電力使用量削減に取り組んでいます。
- ・ デマンド監視で電力の見える化を行い電力使用量削減に取り組んでいます。
- ・ 熱媒ボイラー設定温度の変更や蒸気ボイラーの計画停止等による重油使用量削減に取り組んでいます。

安全・防災活動

- ・ 避難訓練、防災訓練、漏洩訓練を実施しています。
- ・ ヒヤリハット・KYT・RA等に注力しています。
- ・ 安全パトロール、安全衛生協議会を行い安全対策に取り組んでいます。(1回/月)

地域活動



防災訓練



女性活躍推進



排水協定値

	基準値	測定値
pH	5.0~9.0	7.6
BOD (mg/L)	<300	119 (最大値)
SS (mg/L)	<300	2 (最大値)
n-He (mg/L)	<35	<0.5 (最大値)
フェノール類 (mg/L)	<5	<0.1 (最大値)

静岡工場



所在地	静岡県富士宮市内房4386-1	操業開始	1988年
主要生産 品目	乾燥紙力剤 サイズ剤、濾水歩留剤	敷地面積	20,000㎡
		ISO取得	9001

地域活動

- ・ 工場周囲の清掃、樹木剪定、草刈を実施し、周辺環境整備に取り組んでいます。
- ・ 富士宮市環境衛生自治推進協会主催の「ごみ一掃作戦」に参加しました。
- ・ 地域協力金に協賛し、地域環境整備に貢献しています。
- ・ 飲料自動販売機の売り上げの一部を緑の募金へ寄付しています。
- ・ 内房協議会環境視察 工場見学、地域代表および行政との交流に努めています。

環境活動

- ・ 2023年4月より100%グリーン電力購入を開始しました。
- ・ 空調機器設定温度の最適化や工場内照明のLED化を推進して、電力使用量削減に努めています。
- ・ 蒸気ボイラーのプロセス供給圧力をコントロールし重油使用量削減に取り組んでいます。
- ・ COD自動分析測定装置による常時監視、外部業者による水質分析 (1回/月) を実施し、排水を管理しています。

安全・防災活動

- ・ 安全衛生協議会 (1回/月)、危険物管理委員会 (3回/年) を開催しています。
- ・ 避難訓練、防災訓練、緊急時連絡網訓練を実施しています。
- ・ 「応急手当普及員」認定者による社内普通救命講習を実施しました。
- ・ 富士宮市防火安全協会に参画し、各種活動へ協力しています。

地域活動



消火技術大会



排水協定値

	基準値	測定値
pH	6.0~8.0	7.4~7.8
COD (mg/L)	≤12.5	3.7 (最大値)
BOD (mg/L)	≤12.5	3.2 (最大値)
SS (mg/L)	≤25.0	1.1 (最大値)

播磨工場



工場長
宮本 庄吾



所在地	兵庫県加古郡播磨町新島 47-2	操業開始	1978年
主要生産 品目	記録材料用樹脂 水性インキ用樹脂	敷地面積	22,800㎡
		ISO取得	14001

地域活動

- ・新島の清掃活動に参加しています。(4回/年)
- ・瀬戸内海沿岸クリーンキャンペーン(リフレッシュ瀬戸内)に毎年参加しています。
- ・播磨連絡協議会、警察署と連携し、交通安全、防災活動に協力しています。
- ・加古川市消防本部の「救命サポートステーション」に登録しています。

環境活動

- ・全ての生産工程を見直し、電力使用量削減に努めています。
- ・ボイラーの効率運転と、不良蒸気トラップ更新によるガス使用量削減に取り組んでいます。
- ・フォークリフトについて電気リフトへの変更を推進し、CO₂削減に取り組みました。

安全・防災活動

- ・避難訓練、防災訓練、分隊別訓練を行い、有事に備えています。
- ・安全衛生パトロールを実施し、安全衛生委員会を開催しています。(1回/月)
- ・KYT、ヒヤリハット、リスクアセスメントを実施し、安全意識向上に取り組んでいます。

リフレッシュ瀬戸内



排水協定値

	基準値	測定値
pH	5.8~8.6	7.2~7.6
COD (mg/L)	<20	8.0 (最大値)
BOD (mg/L)	<20	8.0 (最大値)
SS (mg/L)	<30	7.0 (最大値)
全窒素 (mg/L)	<6	2.5 (最大値)
全リン (mg/L)	<0.6	0.0 (最大値)

千葉研究所



研究所長
宮本 和也



所在地	千葉県千葉市緑区大野台 2-3-37	操業開始	1999年
		敷地面積	6,000㎡

地域活動

- ・土気緑の森工業団地総務会が例年主催している道路清掃活動に参加しています。

環境活動

- ・デマンド計を設置し、電力使用量削減に努めています。
- ・エアコンの集中管理によるピーク電力の削減に取り組んでいます。

安全・防災活動

- ・安全衛生委員や衛生管理者による所内パトロールを実施し、職場の安全衛生改善を進めています。
- ・パトロールにより発見した設備不具合について、安全衛生委員会で情報共有し、保全委員会が計画的に点検・補修を実施することで、安全安心な施設管理を進めています。
- ・KYTの一環として、若年層社員のパトロール参加、パトロール結果の報告をしてもらい、安全意識の向上に取り組んでいます。
- ・防災訓練を実施しています。(2回/年)
- ・ヒヤリハット報告の自動配信・水平展開システムを活用し、ヒヤリハットの集計解析を実施、研究所内のリスク定量化を行い、事故防止に努めています。
- ・労働安全衛生法等の改正に向けて、安全衛生委員会を中心に化学物質リスクアセスメントを実施し、リスクの低減に努めています。

研究発表会



防災訓練



水島工場



工場長
加藤 雅紀



所在地	岡山県倉敷市玉島乙島新湊 8252-40	操業開始	1988年
主要生産 品目	乾燥紙力剤、湿潤紙力剤 サイズ剤、印刷適性向上剤 クレープ剤	敷地面積	30,000㎡
		ISO取得	14001

地域活動

- ・玉島まつり、乙島まつりへの協賛、福祉施設への寄付を行っています。
- ・玉島交通安全協会の理事として、交通安全への意識を高める活動に取り組んでいます。
- ・倉敷市防火協会玉島支部の理事として、防火思想普及活動に取り組んでいます。
- ・消火技術訓練大会に出場し、消火器男子の部で優勝しました。

環境活動

- ・太陽光発電設備を運用しています。
- ・2022年12月よりグリーン電力を購入しています。
- ・電力・ガスの使用量・金額を朝会で周知し、改善活動を推進しています。
- ・環境保安管理委員会で無駄なエネルギーの撲滅等を協議・推進しています。

安全・防災活動

- ・毎月の安全衛生パトロールで発見した不具合箇所について、安全衛生委員会で協議し、適切に対応(修繕、改善)しています。
- ・総合防災訓練、槽内緊急救助訓練、緊急通報訓練を実施しています。
- ・高圧ガスや静電気等の教育を実施し、安全意識向上に努めています。
- ・漏洩を想定した流出防止訓練を実施しています。
- ・ヒヤリハットデータベースを活用した安全活動の推進を実施しています。

消火技術大会優勝



流出防止訓練



総合防災訓練



排水協定値

	基準値	測定値
pH	5.8 ~ 8.6	7.5
COD (mg/L)	日間平均 20以下、最大 25以下	11.0 (最大値)
SS (mg/L)	日間平均 20以下、最大 30以下	4.6 (最大値)
全窒素 (mg/L)	日間平均 60以下、最大 120以下	11.0 (最大値)
全リン (mg/L)	日間平均 8以下、最大 16以下	0.14 (最大値)

市原研究所



研究所長
松島 輝幸



所在地	千葉県市原市八幡海岸通 17-2	操業開始	1985年
		敷地面積	2,800㎡

地域活動

- ・研究所周辺の清掃活動を行っています。(3回/年)

環境活動

- ・電力使用量削減対策を実施し、前年比7.8%の電力使用量削減を達成しました。

安全・防災活動

- ・安全教育資料を作成し、計画的に安全教育を実施しています。(1回/月)
- ・火災時の避難マニュアルの見直しを実施しました。
- ・腰痛対策や被液対策等、テーマを決めることで、ヒヤリハット活動を推進しています。
- ・他事業所の災害事例から、当事業所でも同様のリスクがある案件を抽出、対策を講じています。(1回/月)
- ・防災グッズの点検を実施しています。(1回/年)

研究所全景



明石研究所



研究所長
森本 幸嗣



所在地	兵庫県明石市立石 1-1-1	操業開始	1951年
		敷地面積	11,300㎡

地域活動

・あかしSDGsパートナーズの活動として、海岸清掃と近隣の小学校へ出張授業を実施しました。

環境活動

・エアコンのスタート時間をタイマー設定で調整し、ピーク電力値の低下に取り組んでいます。
・再資源化できる廃プラと紙への分別を推進し、産廃排出量の削減に取り組んでいます。

安全・防災活動

・明石市消防局 防災センターにて「自衛消防隊訓練研修」に新入社員を含む4名が参加しました。
・所内の防災防火訓練（避難訓練、通報訓練、消火訓練）を実施しています。（1回/年）

あかしSDGs/パートナーズ活動



自衛消防隊訓練研修



防災防火訓練



星光精細加工（張家港）有限公司



総経理
吉谷 孝治



所在地	中国江蘇省張家港市江蘇揚子江国際化学工業園南海路68号	操業開始	2006年
主要生産品目	乾燥紙力剤、湿潤紙力剤、耐水化剤	敷地面積	39,700㎡
		ISO取得	9001、14001

地域活動

・社会貢献活動の一環で、生態公園のゴミ拾いを行いました。
・保税区分隊の訓練活動に協力しています。
・化学園區の緊急防災訓練に参加しました。
・張家港市保税区分隊設立に寄付金を提供し、商会の参加会社として商会運営を協力しています。

環境活動

・軽油フォークリフトを電動フォークリフトに切り替え、CO₂削減を進めています。
・エネルギー効率が優れたポンプを導入し、省エネルギー化を実施しました。
・雨水収集ピットおよび自動制御機器の取り付け工事を実施し、オンライン制御化しました。

安全・防災活動

・当局の査察（計10回）に対し迅速に指摘項目の改善を実施しました。
・EPIタンクの発火を想定し、緊急時対応訓練を実施しました。
・構内のモニターに不安全行為をAIで識別できるシステムを導入し、安全作業を促進しています。
・自動化や情報化が進む現場として、蘇州市の知能化モデル現場企業に認定されました。
・張家港市の安全文化モデル企業として、現場標識や安全環境モニュメントを設置し、模範企業としての取り組みを進めています。

ゴミ拾い活動



緊急時対応訓練



排水協定値

	基準値	測定値
pH	6.0~9.0	7.4
COD (mg/L)	<500	168 (最大値)
SS (mg/L)	<300	12 (最大値)
リン (mg/L)	≤0.2	0.04 (最大値)
NH3-N (mg/L)	≤25	15.3 (最大値)

KJケミカルズ株式会社 八代工場



工場長
中島 康博



所在地	熊本県八代市興国町 1-3	操業開始	1974年
主要生産品目	機能性モノマー 機能性オリゴマー 機能性ポリマー、機能性溶剤 プリン誘導体（核酸化合物）	敷地面積	130,700㎡
		ISO取得	9001、14001

地域活動

・熊本のきれいな川や海を健全な姿で次世代に継承する一斉清掃活動「くまもと・みんなの川と海づくりデー」に参加しています。
・工場内外の清掃活動を実施しています。（1回/月）
・工場近隣の市政協力員と定期的な意見交換を行い、地域の皆様とのコミュニケーションを図っています。（1回/年）
・管理職による「朝の挨拶運動」を実施しています。
・全国有数の花火師が競い合う西日本を代表する、「やつしろ全国花火競技大会」に協賛しました。

環境活動

・再生エネルギー購入によるCO₂排出量削減に努めており、2023年には再生エネルギー購入量を増やし、CO₂排出量削減を推進しました。
・COD自動分析装置による常時監視を行い、八代市との環境保全協定に基づき排水管理をしています。
・2023年10月より太陽光発電設備の稼働を開始しています。

安全・防災活動

・安全衛生委員会を開催し（1回/月）、安全衛生に関する課題について意見集約し、改善を推進しています。
・近隣企業との共同による4社合同防災訓練を実施しています。（1回/年）
・管理職による「防災待機制度」を実施しています。

やつしろ全国花火競技大会



清掃活動



太陽光発電

排水協定値

	基準値	測定値
pH	5.8~8.6	6.5~8.2
COD (mg/L)	日間平均≤35、日間最大≤45	24.2 (最大値)
BOD (mg/L)	日間平均≤60、日間最大≤80	63.0 (最大値)
SS (mg/L)	日間平均≤18.5、日間最大≤40	22.0 (最大値)

新綜工業股份有限公司



総経理
那須 健司



平鎮工場

所在地	台湾桃園市平鎮区平鎮工業区工業五路7号	操業開始	1998年
主要生産品目	溶剤型アクリル系粘着剤 無溶剤型アクリル系粘着剤	敷地面積	5,700㎡
		ISO取得	9001

観音工場

所在地	台湾桃園市観音区工業一路14号	操業開始	2020年
主要生産品目	溶剤型アクリル系粘着剤 無溶剤型アクリル系粘着剤	敷地面積	11,700㎡
		ISO取得	9001

地域活動

・平鎮工業区の管理センターへの寄付により、工業区の様々な活動を支援しています。
・平鎮工業区/観音工業区の組合に参加し、コミュニケーションを通して工業区発展に尽力しています。

環境活動

・蓄熱式脱臭装置（RTO）を導入し、生産活動で発生するVOC排出削減に取り組んでいます。
・環境に優しい無溶剤型粘着剤などの提供を行い、環境負荷低減に貢献しています。

安全・防災活動

・防災教育、消火訓練を実施しています。（2回/年）
・地域消防署の指導のもと、消防設備/作業環境の改善に取り組んでいます。
・観音工場でもISO9001を取得し、マネジメント管理による品質の向上・安定に努めています。

福利厚生活動

・年1回の社員旅行を行い、社員のコミュニケーション向上、連携強化を行っています。

SDS教育



応急手当訓練



社員旅行



各拠点トピックス

■ KJケミカルズ(株) EcoVadis2023年調査にて、ゴールド受賞



EcoVadis社は、180カ国以上の国で、130,000社以上の企業のサステナビリティを客観的に評価する信頼性の高いプラットフォームを提供しています。「ゴールド」評価は上位5%以内の企業が獲得できます。KJケミカルズ(株)は環境/労働と人権/倫理/持続的な資材調達の全ての分野で高評価を得て、ゴールドを受賞しました。

■ (株)マリンナノファイバー 製品紹介

(株)マリンナノファイバーでは、キッチンファイバーを用いた製品展開を行っています。特にペットケア領域の製品展開に注力し、オンラインショップも運営しています。

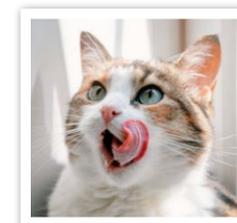
ペットケア製品 η (イータ) for pet マルチケアジェル ～お口やお肌の健康維持に毎日できる簡単ケア～



お口からお肌までマルチに使える、ワンちゃん・ネコちゃん用のマルチケアジェルです。

Point !

- お口のニオイやお肌のかさつきをやわらげます
- お口の周りにチョンとつけたり、気になるお肌に塗るだけの簡単ケア
- 食品成分のみで構成されているので、安心してお使いいただけます



SEIKO PMC VIETNAM CO., LTD.



社長
松下 和祥



所在地	Đường N2, Lô D4, Khu Công nghiệp Chuyên sâu Phú Mỹ 3, Phường Phước Hoà, Thị xã Phú Mỹ, Tỉnh Bà Rịa - Vũng Tàu, Việt Nam	操業開始	2022年
主要生産品目	乾燥紙力剤、ロジンサイズ剤	敷地面積	30,000㎡
		ISO取得	未定

地域活動

- ・ Phú Mỹ Town主催の安全講習に参加しています。

環境活動

- ・ 敷地外の清掃活動を実施しています。(1回/週)
- ・ 外部ISO講習に参加しています。

安全・防災活動

- ・ 化学品を扱うため、安全講習を受講しています。(1回/年)
- ・ 消火器や濡れた毛布による消火訓練、消火栓を使用した放水訓練など防火訓練を実施しています。
- ・ AEDを使用した救命講習を実施しています。

その他活動

- ・ 社員旅行、誕生日会、出張者、赴任者帰国の送別会の開催や社員の結婚披露宴への参加など、みんなでイベントに参加し絆を深めています。
- ・ フットサルチームを結成し、工業団地のフットサル大会に参加しています。

救命講習



防火訓練



社員旅行



フットサルチーム



排水協定値

	基準値	測定値
pH	6.0~9.0	7.2~7.6
COD (mg/L)	≤350	93 (最大値)
BOD (mg/L)	≤300	47 (最大値)
SS (mg/L)	≤300	16 (最大値)
全窒素 (mg/L)	≤35	9 (最大値)
NH3-N (mg/L)	≤20	1.23 (最大値)

株式会社マリンナノファイバー 千代水工場



代表取締役
岩田 悟



所在地	鳥取県鳥取市千代水2丁目88	操業開始	2017年
主要生産品目	キッチンファイバーおよび、キッチンファイバー配合化粧品類	敷地面積	230㎡
		ISO取得	なし

地域活動

- ・ 海と日本PROJECT in とつとりの海岸清掃活動に参加しています。
- ・ 地域のイベントに参加し、地元の特産品(カニ)から生まれた商品の紹介・販売を行っています。

環境活動

- ・ 発送用資材の再利用など、産廃排出削減に努めています。
- ・ 使わない照明、エアコン等はこまめに電源をオフにし省エネに努めています。

安全・防災活動

- ・ 毎月のテーマに沿って危険箇所や作業の確認を行い改善活動を行っています。
- ・ 気づいた点をすぐに指摘できる風通しのよい職場環境づくりに努めています。

海岸清掃



地域イベントへの参加



情報開示メディア

星光PMCグループでは、以下のメディアを通じてステークホルダーの皆様との迅速かつ適正なコミュニケーションを行っています。是非、今後の情報取得にお役立てください。

星光PMC株式会社 HP :

<https://www.seikopmc.co.jp/>



KJケミカルズ株式会社

<https://www.kjchemicals.co.jp/>

株式会社マリンナノファイバー

<https://www.marine-nf.com/>

各種SNS :

星光PMC :

X (旧Twitter)



Linkedin



(英語)

KJケミカルズ :

Linkedin



(英語)

マリンナノファイバー :

X (旧Twitter)



Facebook



LINE



Instagram

